

ELECOM

NetStor

Network storage サーバー

NSB-3NR/3MS シリーズ

User's Manual

対象モデル

【NSB-3NR シリーズ】(1 ベイモデル)

NSB-3NR1T1MLV(1TB モデル)

NSB-3NR2T1MLV(2TB モデル)

NSB-3NR3T1MLV(3TB モデル)

NSB-3NR4T1MLV(4TB モデル)

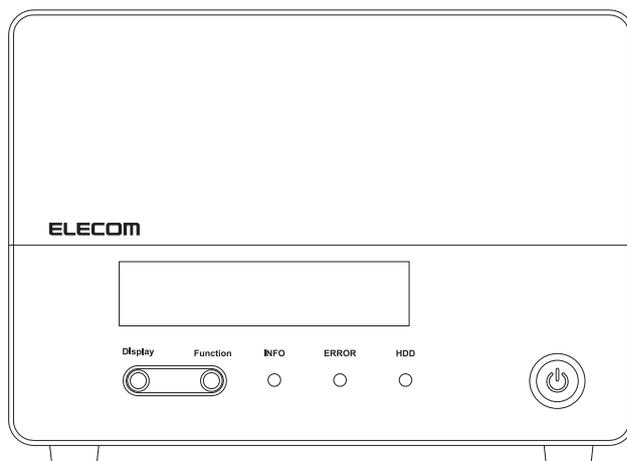
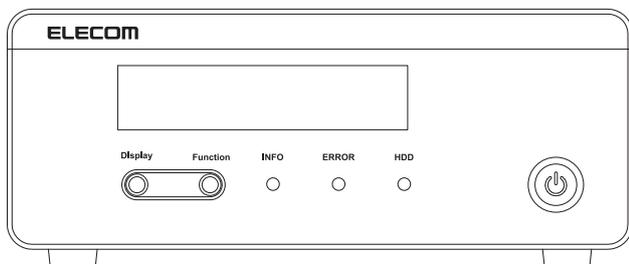
【NSB-3MS シリーズ】(2 ベイモデル)

NSB-3MS2T2BLV(2TB モデル)

NSB-3MS4T2BLV(4TB モデル)

NSB-3MS6T2BLV(6TB モデル)

NSB-3MS8T2BLV(8TB モデル)



エレコム株式会社

●このマニュアルで使われている記号

記号	意味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。 この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTP サイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製 / 転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
- 本製品の日本国外での使用は禁じられています。ご利用いただけません。日本国外での使用による結果について弊社は、一切の責任を負いません。また本製品について海外での（海外からの）保守、サポートは行っておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。
- Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名 / 社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および TM は省略させていただきました。

ELECOM

Network storage サーバー

NSB-3NR/3MSシリーズ

User's Manual ユーザーズマニュアル

安全に関する警告

安全のため、次の安全に関する警告を読み、それに従ってください。

- NSB-3NR/3MS シリーズ（以下、本製品とします）との設定を試みる前に本マニュアルを十分に読んでください。
- 本製品は、複雑な電子機器です。いかなる状況下でも修理を試みないでください。不具合が生じた場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。
- 電源コード上には何物も置かず、また電源コードは踏まれる恐れがある所には置かないでください。接続ケーブルは、踏みつけたり引っ掛けたりすることがないように配置してください。
- 本製品が正常動作できる温度範囲は 0℃ から 40℃ で、相対湿度が 20% ～ 80% です。過酷な環境条件での本製品の使用は、機器を損傷することがあります。
- 本製品に適切な電圧（AC100V、50/60Hz）が供給されていることを確認してください。本製品を誤った電源に接続すると、機器を損傷することがあります。
- 本製品を湿気や、埃、腐食液にさらさないでください。
- 本製品を平坦な場所以外には置かないでください。
- 本製品を直射日光や他の熱源にさらさないでください。
- 本製品の清掃に化学物質やエアロゾルを使わないでください。清掃前には、電源コードや接続ケーブルをすべてプラグから外してください。
- 本製品の上に物を置かないでください。また、機器の過熱防止用の換気スロットをふさがないでください。
- 製品梱包されていたビニール袋等は、子供の手が届かない所に置いてください。
- 機器を廃棄する際は、環境保護のため、電子機器製品の安全な破棄に関する各自治体の指示に従ってください。

もくじ

安全に関する警告	4
警告	6
注意	8
よりよくお使いいただくために	10
安全にお使いいただくために	11
使用環境について	12

Chapter 1 はじめに 13

1.1 各部の名称	14
1.2 本製品を接続する	16
1.3 電源を ON にする手順	19
1.4 電源を OFF にする手順	19
1.5 付属ソフトウェアについて	20
1.5.1 HostExplorer	20

Chapter 2 設定画面の表示方法 22

2.1 設定画面の表示方法	23
2.2 管理者パスワードを変更する	24

Chapter 3 共有フォルダーを設定する 25

3.1 共有フォルダーを作成する	26
3.1.1 共有フォルダーを編集する	27
3.1.2 共有フォルダーのデータを誤って消去しないために (ごみ箱機能を使用する)	28
3.1.3 Windows ファイル共有 (SMB) を使用する	28
3.1.4 MAC ファイル共有、TimeMachine 機能を使用する	29
3.1.5 FTP でファイル共有を行う	29
3.2 ユーザー登録をする	30
3.2.1 ユーザー / グループを一括登録する	30
3.2.2 ユーザーを個別登録する	32
3.2.3 グループを個別登録する	35
3.3 アクセス制限を設定する	37

Chapter 4 ハードディスクの管理 39

4.1 RAID モードを設定する	40
4.1.1 通常モードで使用する (NSB-3NR/3MS シリーズ共通)	41
4.1.2 RAID モードを変更する (NSB-3MS シリーズ)	42
4.1.3 RAID メンテナンスを使用する (NSB-3MS シリーズ)	43
4.2 外付けハードディスクを増設する	44

4.3 取り外し処理をする	45
4.3.1 設定画面で取り外し処理をする	45
4.4 S.M.A.R.T. で内蔵ハードディスクをチェックする	46
4.5 ハードディスクをフォーマットする	47

Chapter 5 データをバックアップする 49

5.1 データをバックアップする	50
5.1.1 他の NAS にバックアップする	50
5.1.2 外付けハードディスクを利用する	54
5.1.3 レプリケーション機能を使用する	56

Chapter 6 本製品を管理する 58

6.1 メール通知機能を使用する	59
6.2 システムログ設定	61
6.3 本製品の設定を出荷時設定に戻す	62
6.3.1 設定画面からの設定の初期化	62
6.3.2 本体底面リセットボタンからの設定の初期化	63
6.4 本製品をアップデートする	64
6.4.1 今すぐアップデートする	64
6.4.2 自動でアップデートする	65
6.5 本製品の名称 (ホスト名) / 時刻を変更する	66
6.6 警告音を設定する	67
6.7 表示パネルを設定する	68
6.8 本製品の IP アドレスを変更する	69
6.9 Jumbo Frame で転送する	70
6.10 UPS (無停電電源装置) と連動させる	71

Chapter 7 付録 72

7.1 出荷時設定	73
7.2 製品仕様	74

補足 A サポート 75

A.1 製品の保証について	76
A.2 サポートサービスについて	77

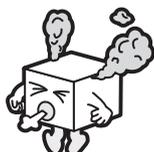
補足 B RAID の基本 78

補足 C ライセンス情報 81

警告

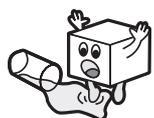


警告



万一、異常が発生したとき。

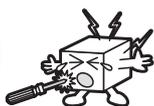
本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



異物を入れないでください。

通気孔などから、金属類や燃えやすいものなどを入れないでください。そのまま使用すると感電や火災の原因になります。

※万一、異物が入った場合は、ただちに電源を切り、販売店にご相談ください。



分解しないでください。

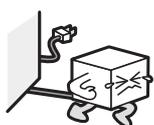
本書の指示に従って行う作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因になります。また、自分で改造・分解を行った機器に関しましては、弊社では一切の保証をいたしかねます。

※特に電源内部は高電圧が多数あり、万一、触れると危険です。



表示された電源で使用してください。

電源コードは必ず AC100V のコンセントに接続してください。



電源コードを大切に。

電源コードは必ず本製品付属のものを使用し、以下の点に注意してください。取扱いを誤ると、感電や火災の原因になります。

「物を載せない」「引っ張らない」「押し付けない」「折り曲げない」「加工しない」「束ねない」「熱器具のそばで使用しない」

**電源プラグの抜き差しには注意してください。**

電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。無理に電源コードを引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。

休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときにも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。

電源プラグをコンセント抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。

**電源プラグの接触不良やトラッキング。**

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。

電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取り、差し込んでください。

グラグラしないコンセントをご使用ください。

**本製品を分解しないでください。**

ケースは絶対に分解しないでください。感電の危険があります。

分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。

**装置の上に物を置かないでください。**

本製品の上に重いものや、水の入った容器類、または虫ピン、クリップなどの小さな金属類を置かないでください。故障や感電、火災の原因になります。

**揮発性液体の近くの使用は避けてください。**

マニキュア、ペディキュアや除光液などの揮発性液体は、装置の近くで使わないでください。装置の中に入って引火すると火災の原因になります。

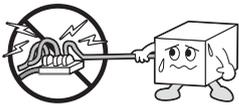
**日本国以外では使用しないでください。**

この装置は日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより、国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており、この装置は適合していません。

注意



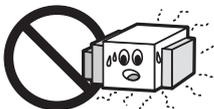
注意



電源コードはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は、火災の原因となります。



電源コードは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。



通気孔はふさがらないでください。過熱による火災、故障の原因となります。また、通気孔には埃が付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。屋外での使用は禁止します。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。



本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用・保管は避けてください。



ラジオ・テレビ等の近くで使用しますと、ノイズを与えることがあります。また、近くにモーター等の強い磁界を発生する装置がありますとノイズが入り、誤動作する場合があります。必ず離してご使用ください。



浴室、洗面台、台所の流し台、洗濯機など水を使用する場所の近傍、湿気が多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。



装置の梱包用ポリ袋はお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙や接触不良などにより故障の原因になります。



ケーブルは足などをひっかけないように配線してください。足をひっかけるとケガや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。

ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。



地震対策について

地震などによる振動で装置の移動、転倒あるいは窓からの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、地震・振動対策を保守会社や専門業者にご相談いただき、実施してください。

よりよくお使いいただくために



本製品とシステム装置やハブ等のネットワーク装置を接続する際には、指定および制限事項を確認の上、ご使用ください。指定および制限事項を考慮しなかった場合、ネットワーク環境全体の伝送能力に問題が生じるおそれがあります。

【廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意】

- ご利用の弊社製品を廃棄・譲渡等される際には、以下の事項にご注意ください。
- パソコンおよび周辺機器を廃棄あるいは譲渡する際、HDD ユニットに記録されたお客様のデータが再利用され、データが流出してしまうことがあります。
- HDD ユニットに記録されたデータは、「削除」や「フォーマット」を行っただけではデータが消えたように見えるだけで、特殊なソフトウェアなどを使うことにより、消したはずのデータが再生されることがあります。
HDD ユニットのデータが第三者に流出することがないように全データの消去の対策をお願いいたします。また、HDD ユニット上のソフトウェアを消去することなくパソコンおよび周辺機器を譲渡しますと、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますので、ご注意ください。
- 万一、盗難によりお客様のデータが流出した場合、弊社は一切の責任を負いかねます。大切なデータを管理するため、盗難防止など必要な処置を講じていただけます様、お願いいたします。

【ハードディスクを廃棄する場合】

データ消去サービスのご案内

弊社では、HDD ユニット上のデータを強磁気破壊方式（※）により完全に消去するサービスを有償にて行っております。重要なデータの保存に利用した HDD ユニットの廃棄する場合などにご利用ください。

※磁気記録装置に強磁界を印加し、物理破壊を伴わずに磁気データを破壊します。

磁気ヘッドを制御するためのサーボ情報や駆動用のマグネットの磁気も消去しますので、HDD ユニットの再利用することはできません。

データ消去サービスの詳細については、弊社ホームページでご紹介しておりますので、ご参照ください。

「データ復旧技術センター」

http://www.logitec.co.jp/data_recovery

安全にお使いいただくために

本製品を安全にご利用いただくために、以下の事項を遵守いただきますようお願いいたします。

■ 本製品について

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

万一、本製品内のデータが消失した場合、データの復旧につきましては、弊社ではいかなる保証もいたしかねます。

■ データのバックアップ

本製品（NSB-3MS シリーズのみ）には RAID 機能が搭載されておりますが、これはハードディスクの冗長性を高めるものであり、データの保証をするものではありません。本製品を安全にご利用いただくためには、データのバックアップを欠かさず行っていただきますよう、お願いいたします。

使用環境について

本製品は以下の環境でご使用ください。OS はいずれも日本語のものに限ります。また、使用するクライアントパソコンは LAN 環境に接続されている必要があります。

■ クライアント環境

セットアップ、管理操作が可能な OS

- Windows 10 (32/64bit)、
- Windows 8.1 (32/64bit)、
- Windows 7 (32/64bit) SP1 以降、
- Windows Server 2012 R2 (64bit)、
- Windows Server 2008 R2 (64bit) SP2 以降、
- Mac OS X 10.11、Mac OS X 10.10、Mac OS X 10.9、Mac OS X 10.8、Mac OS X 10.7

本製品をご利用の場合、クライアントパソコンのブラウザ画面サイズは、800 × 600 ピクセル以上でご利用ください。

管理画面の上下が切れる場合は、ツールバー及びステータスバーを非表示にしてご利用ください。

共有フォルダーにアクセス可能な OS

- Windows 10 (32/64bit)、
- Windows 8.1 (32/64bit)、
- Windows 8 (32/64bit)、
- Windows 7 (32/64bit) SP1 以降、
- Windows Vista (32/64bit) SP2 以降、
- Windows XP SP3 以降、
- Windows Server 2012 R2 (64bit)、
- Windows Server 2012 (64bit)、
- Windows Server 2008 R2 (64bit) SP2 以降、
- Windows Server 2008 (32/64bit) SP2 以降、
- Windows Server 2003 R2 (32/64bit) SP2 以降、
- Windows Server 2003 (32/64bit) SP2 以降、
- Mac OS X 10.11、Mac OS X 10.10、Mac OS X 10.9、Mac OS X 10.8、Mac OS X 10.7、Mac OS X 10.6
- UNIX 系 OS*

※ UNIX 系 OS は、特殊な設定を必要とする場合があります。ご利用方法までは、動作保証の対象外となります。

Chapter 1

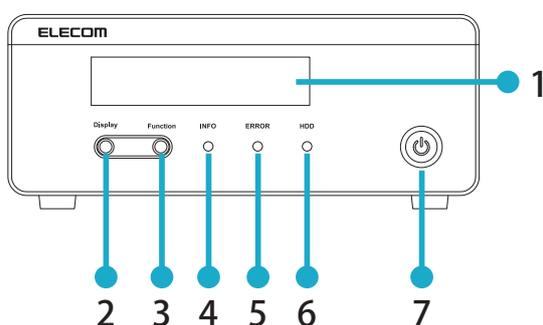


はじめに

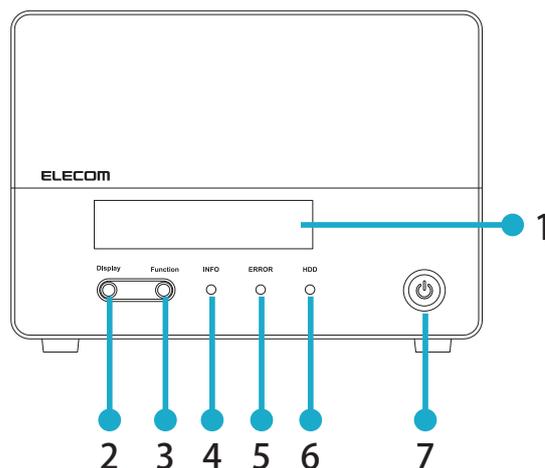
1.1 各部の名称

前面パネル

●NSB-3NRシリーズ(1ベイモデル)



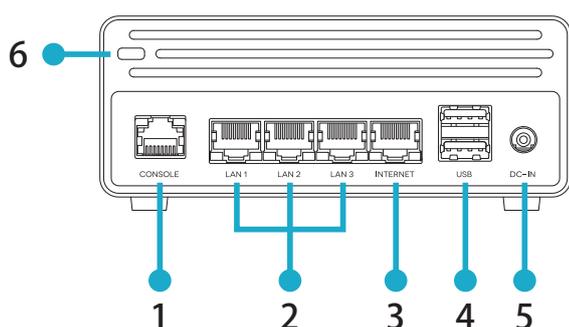
●NSB-3MSシリーズ(2ベイモデル)



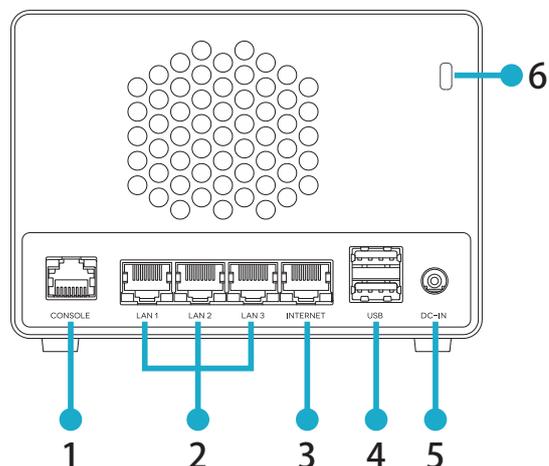
番号	項目	説明
1	液晶ディスプレイ	本製品の情報や状態を表示します。
2	ディスプレイ切替ボタン	液晶ディスプレイ表示を切り替えます。(表示内容：①ホスト名 /Version ② NSB 本体 IP アドレス③日時 情報) エラー音が鳴っているときに押すと、エラー音が停止します。
3	ファンクションボタン	使用しません。
4	INFO ランプ	使用しません。
5	ERROR ランプ	赤色点灯：エラーが発生したときに点灯します。
6	HDD ランプ	緑色点灯：電源が入っているときに、点灯します。
7	電源ボタン	本製品の電源オン / オフ

背面パネル

●NSB-3NRシリーズ(1ベイモデル)



●NSB-3MSシリーズ(2ベイモデル)

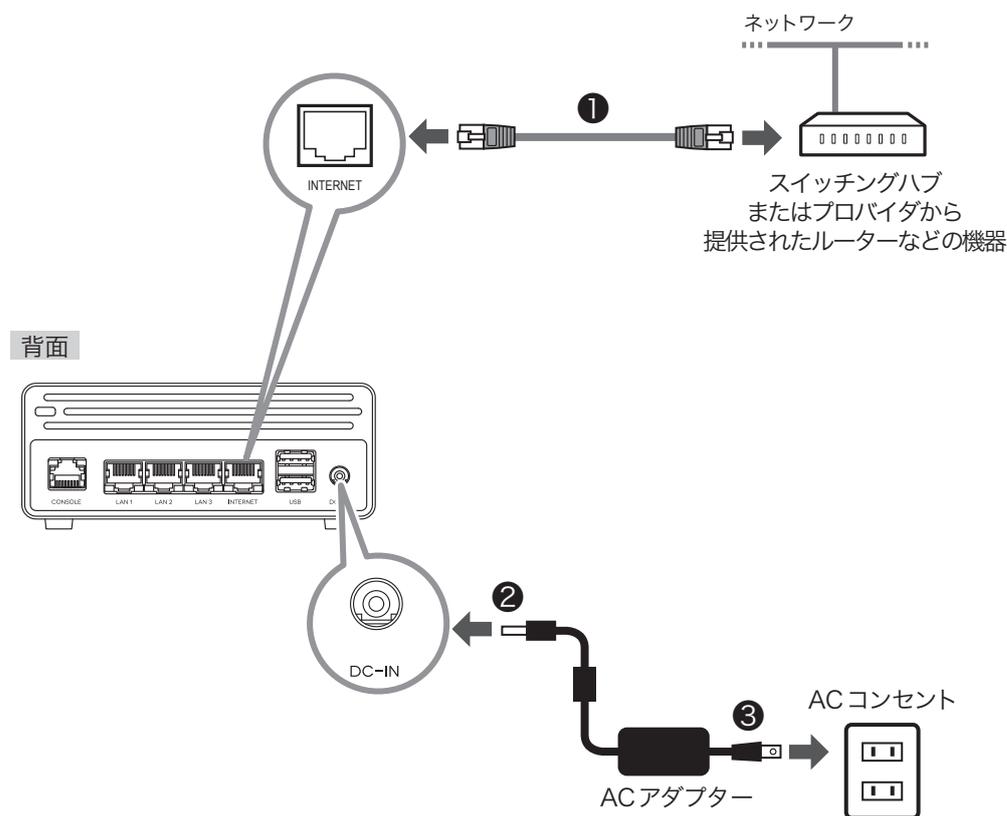


番号	項目	説明
1	CONSOLE ポート	使用しません。
2	LAN ポート	使用しません。
3	INTERNET ポート	本製品と利用ネットワーク (LAN) を接続します。
4	USB 2.0 ポート	USB ハードディスク、USB メモリ等を接続できます。
5	電源コネクタ	付属の AC アダプターを接続します。
6	盗難防止機構	別売りのセキュリティワイヤー等を使用し、ラックや机に固定することで、機器の盗難を未然に防ぎます。

1.2 本製品を接続する

NSB-3NR シリーズの場合

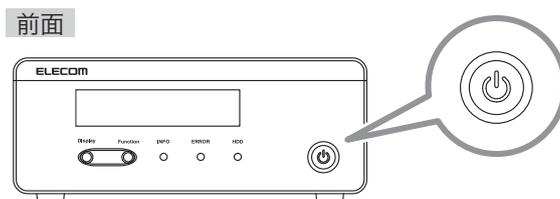
1 イラストを参考に、以下の手順で本製品を接続します。



- ① 本製品をご使用になるネットワークに本製品を LAN ケーブルで接続します。
※本製品の INTERNET ポートに LAN ケーブルを接続します。
- ② 付属の AC アダプターの DC プラグを本製品の DC ジャックに差し込みます。
- ③ 付属の AC アダプターの電源プラグを AC コンセントに差し込みます。

2 電源ボタンを押します。

ブザー音と共に、全ての LED が一定時間点灯します。

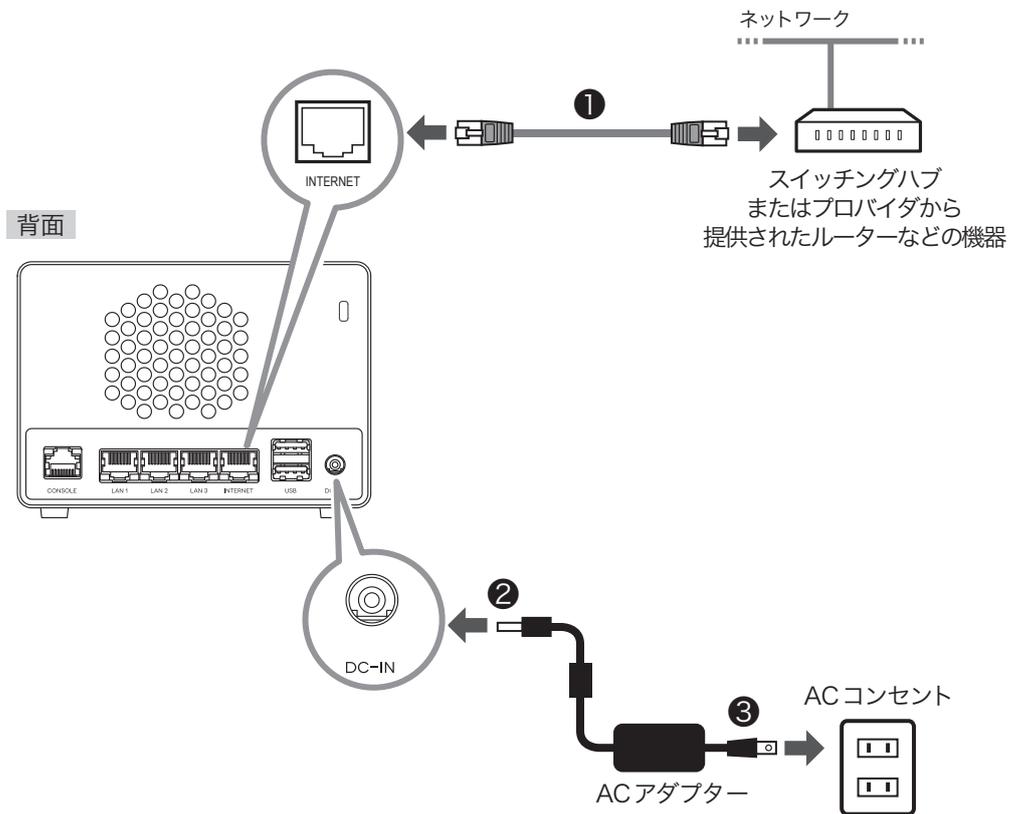


3 ブザー音が 3 回鳴れば起動完了です。

ディスプレイに「Welcome ELECOM」と表示され、ブザー音が 3 回鳴ります。

NSB-3MS シリーズの場合

1 イラストを参考に、以下の手順で本製品を接続します。

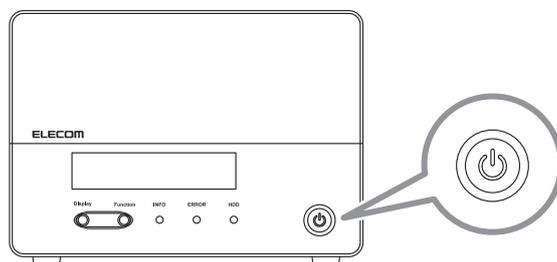


- ① 本製品をご使用になるネットワークに本製品を LAN ケーブルで接続します。
※本製品の INTERNET ポートに LAN ケーブルを接続します。
- ② 付属の AC アダプターの DC プラグを本製品の DC ジャックに差し込みます。
- ③ 付属の AC アダプターの電源プラグを AC コンセントに差し込みます。

2 電源ボタンを押します。

ブザー音と共に、全ての LED が一定時間点灯します。

前面



3 ブザー音が 3 回鳴れば起動完了です。

ディスプレイに「Welcome ELECOM」と表示され、ブザー音が 3 回鳴ります。

1.3 電源を ON にする手順

本体前面の電源ボタンを押すと電源が ON になります。
ディスプレイ点灯後、3 回ブザー音が鳴れば起動完了となります。

- ・ HDD ランプが緑色に点灯します。
- ・ 起動が完了するまで数分かかります。

1.4 電源を OFF にする手順

電源を OFF にするときは、次の手順で必ずシャットダウンをしてください。

MEMO 電源を OFF にしないまま電源ケーブルを取り外すと本製品が故障する恐れがあります。

本体前面の電源ボタンでシャットダウンを行う

電源ボタンを押してください。

本製品の設定画面からシャットダウンを行う

本製品の設定画面の [電源] ボタンから [シャットダウン] をクリックすることによりシャットダウンが可能です。

MEMO シャットダウン実行後、液晶ディスプレイ、HDD ランプが消灯します。

注意

必ず本製品の電源ボタン及び、設定画面から電源のシャットダウンを実行してください。電源タップのスイッチを切るなど、本製品の電源を強制的にシャットダウンすると、データの消失ならびに HDD を破損する恐れがあります。

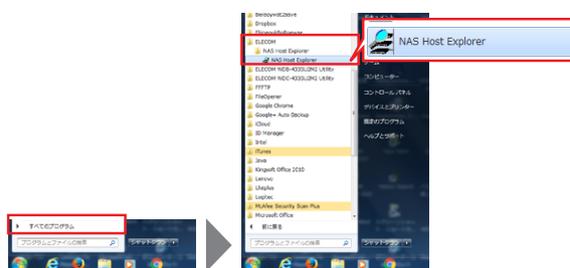
1.5 付属ソフトウェアについて

1.5.1 HostExplorer

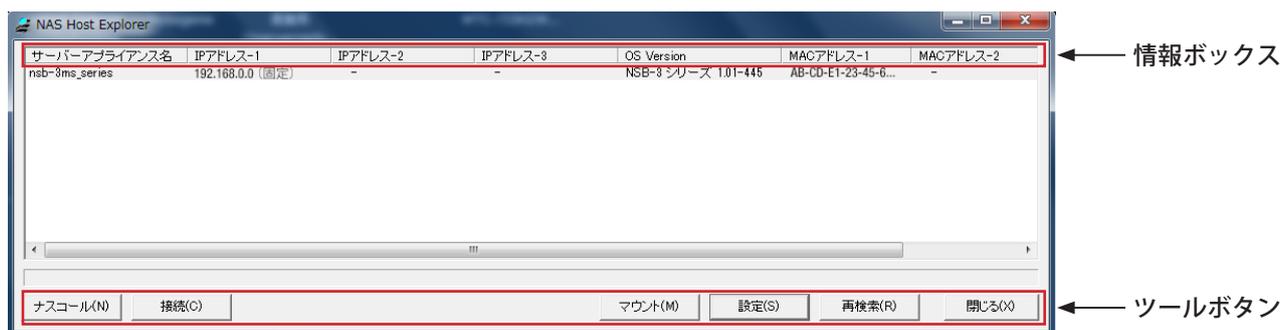
画面解説

HostExplorer を使うと、簡単に本製品の管理画面へのログインやディスク容量の確認を行うことができます。

HostExplorer 利用にあたり、本製品付属 CD-ROM より HostExplorer をインストールしてください。



起動方法：画面左下の「スタートボタン」をクリックし、スタートメニュー内にある「すべてのプログラム」 - 「ELECOM」 - 「NAS Host Explorer」 - 「NAS Host Explorer」アイコンをクリックします。



画面上に現在ネットワークに接続中の NSB シリーズが表示されます。ネットワークに複数の NSB シリーズが存在する場合は複数表示されますので、設定する本製品を選択します。

※ 機器が表示されない場合は、「再検索」を押してください。それでも表示されない場合は、本製品のケーブルなどの接続状況を確認してください。

※ 管理用 PC に複数のネットワークインターフェース (無線 LAN と有線 LAN など) が搭載されている場合、本製品が接続されている以外のネットワークインターフェースを「無効」にしてください。

※ 複数の NSB シリーズが画面上に表示された場合は、本製品前面の液晶パネルに表示されている情報を照合して選択してください。

●情報ボックス

サーバーアプライアンス名	本製品に命名されたサーバーアプライアンス名 (コンピュータ名) が表示されます。出荷時状態では「nsb-3nr_series」または「nsb-3ms_series」と表示されます。
IP アドレス	本製品の IP アドレスが表示されます。
OS Version	本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。
MAC アドレス	本製品の MAC アドレスが表示されます。 (MAC アドレス -2、MAC アドレス -3 は使用しません)

●ツールボタン

ナスコール	このボタンをクリックすると選択された本製品がビープ音を 3 秒程度発します。
接続	このボタンをクリックすると Explorer が起動し、共有フォルダにアクセスできます。
マウント	このボタンをクリックすると、ネットワークドライブの割り当てを行いません。
設定	このボタンをクリックすると選択した本製品の設定画面にアクセスできます。
再検索	このボタンをクリックするとネットワーク内から NSB シリーズを再度検索します。
閉じる	このアプリケーションを終了します。

MEMO

HostExplorer を実行している管理用 PC と本製品のセグメントが異なるとき、本製品設定用の仮 IP アドレス設定画面が表示されますので、管理画面の指示に従って下さい。

Chapter 2

設定画面の表示方法

2.1 設定画面の表示方法

1 スタートメニューの [NAS Host Explorer] をクリックします。

MEMO

Mac OS X をお使いの場合は、アプリケーションフォルダ内の [HostExplorer] アイコンをクリックします。

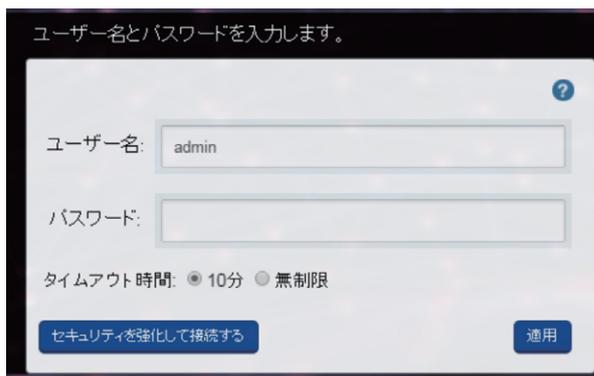
2 本製品のアプライアンス名をクリックし、[設定] をクリックします。



3 ユーザー名とパスワードを入力し、[適用] をクリックしてください。

MEMO

- ・ 出荷時設定では、ユーザー名 [admin]、パスワード [admin] になっています。
- ・ [タイムアウト時間] で [10分] を選択すると、設定画面で 10 分間操作が無い状態が続いたとき、自動的にログアウトします。[無制限] を選択すると、本製品を再起動したりブラウザを閉じない限りログイン状態が継続します。



4 本製品の設定画面が表示されます。

MEMO

[ナスコール] をクリックすると、本製品からビープ音が鳴ります。複数 NSB シリーズを使っている環境で本製品を見つけるときにお使いください。

以上で設定画面の表示は完了です。

2.2

管理者パスワードを変更する

初期設定後に管理者パスワードを変更するときは次のように行います。

- 1 **[管理]** — **[パスワード変更する]** をクリックします。



- 2 **[新しいパスワード]** および **[パスワード (確認)]** に任意の管理者パスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。

A dialog box titled 'パスワード変更する' (Change Password) with a close button (X) in the top right corner. It contains two text input fields: the first is labeled '新しいパスワード* (最大20文字)' (New Password* (Maximum 20 characters)) and the second is labeled 'パスワード(確認)*' (Password (Confirmation)*). At the bottom of the dialog, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

- 3 **[OK]** をクリックします。

A dialog box titled '製品情報' (Product Information) with a close button (X) in the top right corner. The main text area displays the message 'パスワードが正常に変更されました' (Password has been successfully changed). At the bottom right of the dialog, there is an 'OK' button.

以上で管理者パスワードの変更は完了です。

Chapter 3

.....

共有フォルダーを設定する

3.1 共有フォルダーを作成する

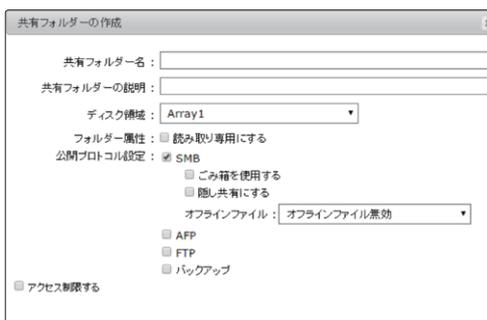
- 1 設定画面より、[ファイル共有] - [共有フォルダー] をクリックします。



- 2 共有フォルダー一覧より、[共有フォルダーの作成] をクリックします。



- 3 共有フォルダー名など各項目を入力し、[OK] をクリックします。



入力項目	説明
共有フォルダー名	英数字、マルチバイト文字（ひらがな、カタカナ、漢字）、-（ハイフン）、_（アンダーバー）を文字数換算で1～60文字まで入力可能。
共有フォルダーの説明	半角文字換算で60文字以内で設定してください。 <使用可能文字> 半角英数字、半角記号 -（ハイフン）、_（アンダーバー） ※注意 製品仕様により、「¥」を入力すると「\」（バックスラッシュ）と表示されます。 マルチバイト文字（ひらがな、カタカナ、漢字など）は使用できません。
ディスク領域	共有フォルダーを作成するディスク領域を指定します。
公開プロトコル設定	公開プロトコルを選択します。 SMB：Windows ファイル共有の実施（Windows 及び Mac） AFP：Apple 社の TimeMachine 機能利用 FTP：FTP サーバーを使用する場合

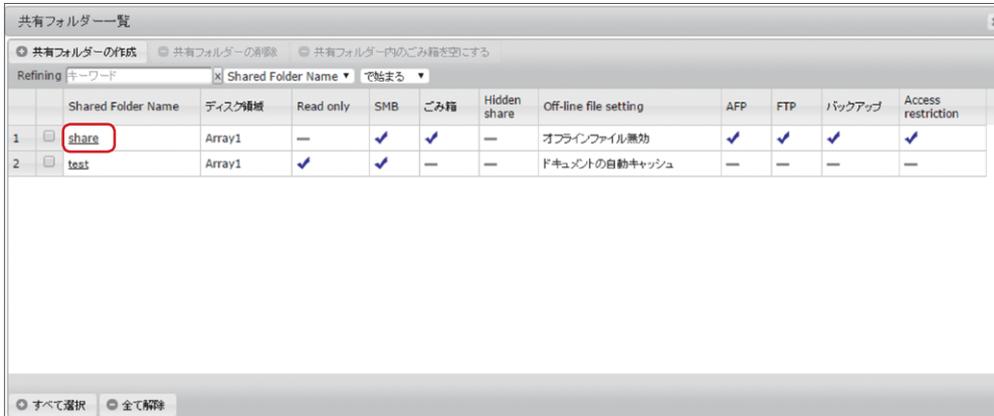
以上で共有フォルダーの作成は完了です。

MEMO

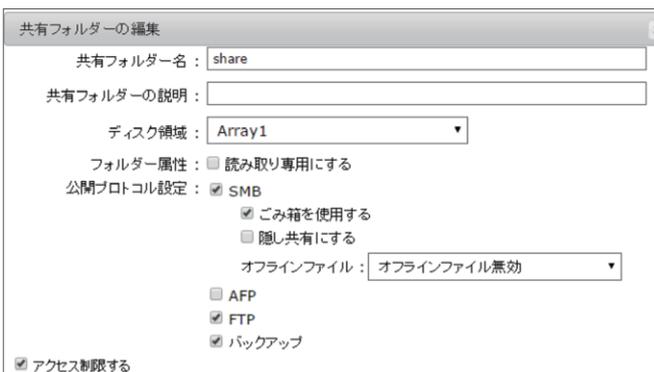
- 共有フォルダーは、最大300個まで作成可能です。
- 既に存在する共有フォルダーと同一名称の共有フォルダーは作成できません。
- 下記名称の共有フォルダーは作成できません。（大文字/小文字の区別なし）
global、printers、homes
- フォルダー名は、-（ハイフン）、_（アンダーバー）を先頭に使用することはできません。

3.1.1 共有フォルダーを編集する

- 共有フォルダー一覧の共有フォルダー名より編集したいフォルダー名をクリックします。



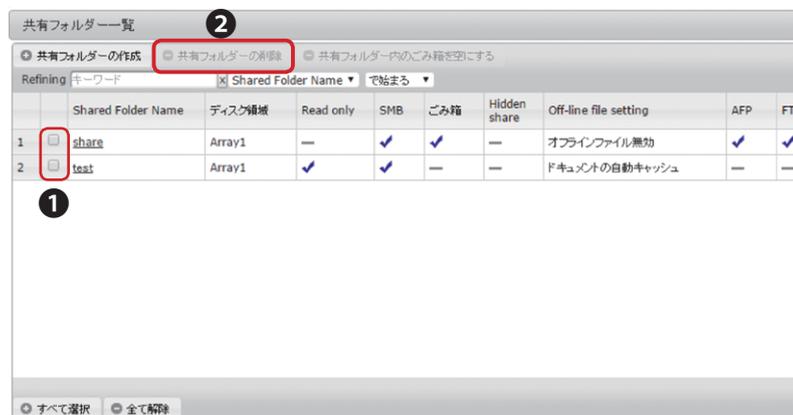
- 共有フォルダーの編集画面より、共有フォルダーの修正完了後、[OK] ボタンをクリックします。



MEMO

【共有フォルダーの削除】

- 共有フォルダー一覧に表示されている、削除したい共有フォルダー名の左横のチェックボックスを選択します。
- 【共有フォルダーの削除】ボタンが選択可能となりますので、同ボタンをクリックします。



- 【最終確認】 画面が表示されますので、実行する場合は表示されている数字を正確に入力し [OK] をクリックしてください。

3.1.2 共有フォルダーのデータを誤って消さないために（ごみ箱機能を使用する）

共有フォルダーごとにごみ箱機能の設定ができます（SMB 接続時以外は使用できません）。OS のごみ箱と同じように、共有フォルダー内の削除されたデータは一時的に [trashbox] フォルダーに移動されます。削除したデータを元に戻したいときは、[trashbox] フォルダーを開いてファイルを移動させてください。

MEMO

- 設定画面で [ファイル共有] - [共有フォルダー] から、実行対象の共有フォルダーを選択後、[共有フォルダー内のごみ箱を空にする] をクリックし、該当の共有フォルダから [trashbox] フォルダーを削除します。
- [trashbox] フォルダー内のデータは自動では削除されません。

3.1.3 Windows ファイル共有（SMB）を有効にする

- 1 設定画面より [ファイル共有] - [SMB] をクリックします。



- 2 SMB 設定画面が開きますので、「SMB を有効にする」にチェック後、「適用」 ボタンをクリックします。



3.1.4 MAC ファイル共有、TimeMachine 機能を使用する

- 1 設定画面より [ファイル共有] – [AFP] をクリックします。



- 2 AFP 設定画面が開きます。MAC とファイル共有する場合は、「AFP を有効にする」へ、TimeMachine 機能を使用する場合は、「AFP を有効にする」と「TimeMachine を有効にする」にチェックを入れ、[適用] ボタンをクリックします。



3.1.5 FTP でファイル共有を行う

- 1 設定画面より [ファイル共有] – [FTP] をクリックします。



- 2 FTP 設定画面が開きますので、「FTP を有効にする」にチェックを入れます。また、FTP 実施項目の「匿名アクセス」のプルダウンメニュー（・許可しない ・ダウンロードのみ ・ダウンロード / アップロード）選択後、[適用] ボタンをクリックします。



3.2 ユーザーを登録する

共有フォルダーへのユーザーごとのアクセス制限設定を実行するにあたり、ユーザーとグループを登録する必要があります。

本製品では下記登録方法を提供しています。

1. 一括で登録する
2. 個別に登録する

3.2.1 ユーザー / グループを一括登録する

本製品は、指定された CSV ファイルをアップロードして、ユーザー・グループの一括登録が可能です。

ファイルの文字コードは UTF-8 とし、1 ユーザー 1 行で記載された、カンマ区切りの CSV ファイルとなります。

【CSV ファイルの記載フォーマット例】

ユーザー名, パスワード, グループ

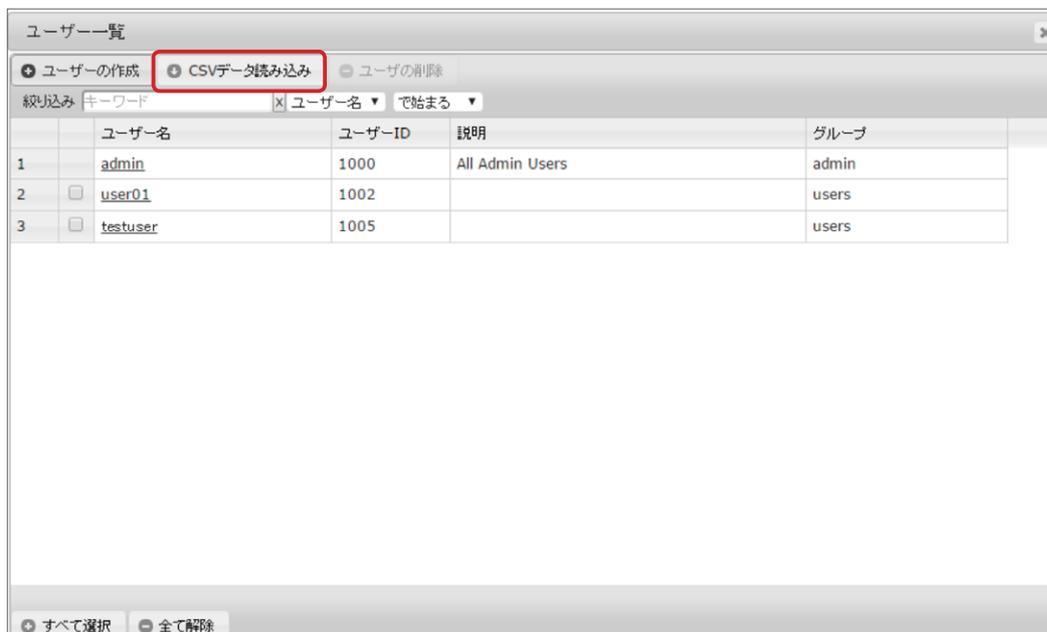
【例】 username1, password1, group1
 username2, password2, group2
 username3, password3, group3

1 事前に一括登録したい CSV ファイルを用意しておきます。

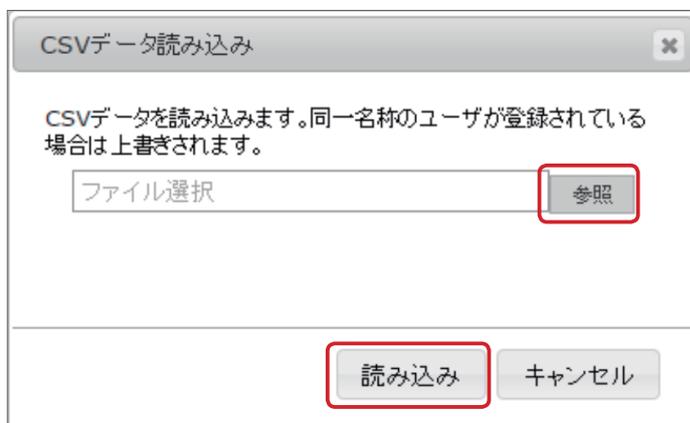
2 設定画面より、[ファイル共有] - [ユーザー] をクリックします。



3 ユーザー一覧画面が開きますので、[CSV データ読み込み] ボタンをクリックします。



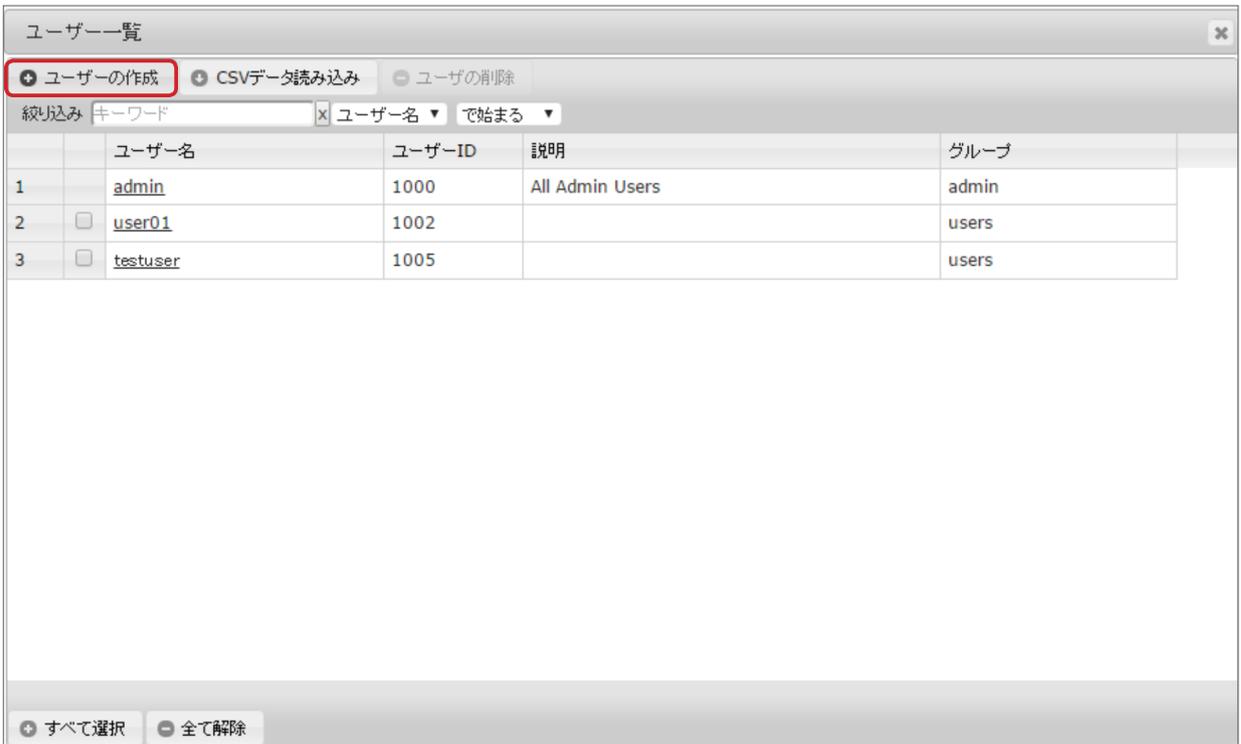
- 4 CSV データ読み込みダイアログが表示されます。[参照] より一括登録する CSV ファイルを選択後、[読み込み] ボタンをクリックします。



- 5 ユーザーの一括登録が正常に完了すると、「インポートが成功しました」のメッセージボックスが表示されます。

3.2.2 ユーザーを個別登録する

- 1 設定画面より、[ファイル共有] – [ユーザー] をクリックし、ユーザー一覧を表示します。



- 2 [ユーザーの作成] ボタンをクリックし、ユーザー作成ダイアログを表示させます。

【ユーザーの追加】

- ①表示されている所属グループ一覧より所属するグループにチェックを入れます。
- ②ユーザー情報を入力し、最後に [適用] ボタンをクリックします。

ユーザーの作成

ユーザー名 (最大32文字)*

ユーザーID (1000-1999)

メールアドレス

パスワード* (最大20文字)

パスワード(確認)*

説明 (最大75文字):

絞り込み: グループ名

所属グループ

users

admin

プライマリグループ: users

適用 キャンセル

■ユーザー作成項目一覧

項目	入力有無	説明
ユーザー名	必須	ユーザー名を入力して下さい。 <使用可能文字> ・半角英数字 ・半角記号：_(アンダースコア)、-(ハイフン)、\$ ・マルチバイト文字（ひらがな、カタカナ、漢字など） ※注意 先頭に半角数字は入力できません。
ユーザー ID	任意	社員番号等の番号を入力して下さい。（管理 ID）
メールアドレス	任意	ユーザーのメールアドレスを入力します。
パスワード	必須	フォルダアクセス時のログインパスワードを入力します。
パスワード（確認）	必須	入力可能文字数：1～20文字 <使用可能文字> ・半角英数字 ・半角記号 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{ }~@ ※注意 製品仕様により、「¥」を入力すると「\」（バックスラッシュ）と表示されます。
ユーザーの説明	任意	ユーザー情報を入力します。 入力可能文字数：75文字 <使用可能文字> ・マルチバイト文字（ひらがな、カタカナ、漢字など） ・半角英数字 ・半角記号 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{ }~@ ※注意 製品仕様により、「¥」を入力すると「\」（バックスラッシュ）と表示されます。
所属グループ	-	表示されている所属グループ一覧から所属グループにチェックします。
プライマリーグループ	-	所属グループよりチェックしたグループよりプライマリーグループを選択します。

【ユーザーの編集】

- ①ユーザー一覧より編集したいユーザー名を選択すると、ユーザー編集画面が表示されます。
- ②修正内容を入力します。パスワード変更時は新しいパスワードを入力して下さい。
- ③編集完了後、**[適用]** ボタンをクリックします。

ユーザー編集

ユーザー名 (最大32文字)* testuser 絞り込み: グループ名 X

ユーザーID (1000-1999) 1007

メールアドレス

パスワード* (最大20文字) *****

パスワード(確認)* *****

説明 (最大75文字):

所属グループ

- admin
- users

プライマリグループ: users

適用 キャンセル

【ユーザーの削除】

- ①ユーザー一覧に表示されている、削除したいユーザー名の左横のチェックボックスを選択します。
- ②**[ユーザーの削除]** ボタンが選択可能となりますので、同ボタンをクリックします。

ユーザー一覧

ユーザーの作成 CSVデータ読み込み **ユーザーの削除**

絞り込み キーワード X ユーザー名 で始まる

	ユーザー名	ユーザーID	説明	グループ
1	admin	1000	All Admin Users	admin
2	<input type="checkbox"/> user01	1002		users
3	<input checked="" type="checkbox"/> testuser	1005		users

すべて選択 全て解除

- ③**[最終確認]** 画面が表示されますので、実行する場合は表示されている数字を正確に入力し **[OK]** をクリックしてください。

3.2.3 グループを個別登録する

下記グループは、初期登録グループとして工場出荷時より登録されています。

- admin / 管理用グループ
- users / 一般ユーザー

MEMO

- 上記、admin、users の初期登録グループは、仕様により削除できません。
- 登録可能なグループ数は 300 となります。(初期登録グループ含む)

1

設定画面より、**[ファイル共有]** - **[グループ]** をクリックし、グループ一覧を表示します。



グループ一覧

グループの作成 | グループの削除

絞り込み キーワード x グループ名 で始まる

	グループ名	グループID	グループの説明	所属ユーザー
1	admin	1000	All Admin Users	admin
2	<input type="checkbox"/> testgroup	1002		
3	users	1001	All Admin Users	testuser, user01

すべて選択 | 全て解除

2

[グループの作成] ボタンをクリックし、ユーザー作成ダイアログを表示させます。

【グループの追加】

- ①対象グループに所属するユーザー名にチェックを入れます。
- ②グループ情報を入力し、最後に **[適用]** ボタンをクリックします。

グループを作成

グループ名 (最大32文字)*

グループID (1000-1999)

メールアドレス

グループの説明 (最大75文字):

絞り込み: ユーザー名 x

所属ユーザー名

admin

testuser

適用 | キャンセル

■グループ作成項目一覧

項目	入力有無	説明
グループ名	必須	グループ名を入力して下さい。
ユーザー ID	任意	部門コード等の番号を入力して下さい。(管理 ID)
グループの説明	任意	グループ情報を入力します。
所属ユーザー名	-	対象グループに所属するユーザー名にチェックします。

【グループの編集】

- ①グループ一覧より編集したいグループ名を選択すると、グループ編集画面が表示されます。
- ②編集完了後、**[適用]** ボタンをクリックします。

【グループの削除】

- ①グループ一覧に表示されている、削除したいグループ名の左横のチェックボックスを選択します。
- ②**[グループの削除]** ボタンが選択可能となりますので、同ボタンをクリックします。

- ③**[最終確認]** 画面が表示されますので、実行する場合は表示されている数字を正確に入力し **[OK]** をクリックしてください。

3.3 アクセス制限を設定する

ユーザーとグループに対して、特定のフォルダーならびにサブフォルダーへのアクセス制限を設定することができます。

MEMO

アクセス制限設定（拒否・読取専用・書込可能の合計）はユーザー／グループ合計で最大 20 までとなります。

- 1 設定画面より、[ファイル共有] - [共有フォルダー] をクリックし、共有フォルダー一覧より、アクセス制限を設定したい共有フォルダー名をクリックします。



共有フォルダー一覧

共有フォルダーの作成 共有フォルダーの削除 共有フォルダー内のごみ箱を空にする

Refining キーワード Shared Folder Name で始まる

	Shared Folder Name	ディスク領域	Read only	SMB	ごみ箱	Hidden share	Off-line file setting	AFP	FTP	バックアップ	Access restriction
1	<input type="checkbox"/> share	Array1	—	✓	✓	—	オフラインファイル無効	✓	✓	✓	✓
2	<input type="checkbox"/> test	Array1	✓	✓	—	—	ドキュメントの自動キャッシュ	—	—	—	—

すべて選択 全て解除

- 2 共有フォルダー編集画面が表示されますので、「アクセス制限する」にチェックを入れ、アクセス制限を有効にします。

共有フォルダーの編集

共有フォルダー名: share

共有フォルダーの説明:

ディスク領域: Array1

フォルダー属性: 読み取り専用にする

公開プロトコル設定: SMB

ごみ箱を使用する

隠し共有にする

オフラインファイル: オフラインファイル無効

AFP

FTP

バックアップ

アクセス制限する

- 3** [ローカルユーザー] タブならびに、[ローカルグループ] タブより、制限をかけたいユーザー / グループのアクセス権限を選択後、[適用] ボタンをクリックし、アクセス制限設定内容が正しければ最後に [OK] ボタンをクリックします。



フォルダ設定項目

項目	説明
未設定	アクセス権を設定しません。(初期値設定)
アクセス不可	対象ユーザーまたはグループのアクセスを拒否します。
読込専用	対象ユーザーまたはグループのアクセスは読み取り専用になります。
書込可能	対象ユーザーまたはグループのアクセスは読み書き可能です。

- 4** サブフォルダーへのアクセス権限設定について

親フォルダー（本マニュアルでは "test1"）の ▶ をクリックいただくと対象フォルダー配下のサブフォルダーが表示されますので、アクセス権限設定を行いたいサブフォルダーを選択します。（権限設定手順は手順 **3** と同様となります。）

MEMO 配下のフォルダーに同じアクセス権を反映したい場合には [再帰] ボタンをクリックします。



Chapter 4

ハードディスクの管理

4.1 RAID モードを設定する

ハードディスクの使用モードは出荷時に次のように設定されています。

●出荷時設定

シリーズ名	出荷時設定（ハードディスク使用モード）
NSB-3NR シリーズ	RAID 非対応
NSB-3MS シリーズ	RAID1 モード

MEMO

ハードディスクの使用モードを変更すると、保存されているデータはすべて消去されます。

本製品はハードディスクが交換できない仕様となっておりますので、ご了承ください。

各ハードディスクの使用モードの特長は次のとおりです。NSB-3NR シリーズでは、下記モード状態の内、「通常モード」のみでのご使用となります。

●モード状態

モード	説明
RAID 1 モード (NSB-3MS シリーズのみ)	同じデータを 2 つのハードディスクに書き込みます。片方のハードディスクのデータが破損しても、もう一方のハードディスクによるデータ復旧が可能で、信頼性が向上します。同モードでは、2 台で同じデータを保持する為、利用できるハードディスクの容量は 1 台分となります。
RAID 0 モード (NSB-3MS シリーズのみ)	2 台以上のハードディスクを 1 つのアレイとして使用します。利用できる容量は、使用したハードディスクの合計台数の容量となります。分散して書き込みを行うのでアクセス速度が少し速くなります。ハードディスクが破損した場合、データを復旧することはできません。あらかじめご了承ください。
通常モード	本製品に内蔵されているハードディスクを個々のドライブとして使用します。利用できる容量は、本製品に内蔵されているハードディスクの合計の容量となります。ハードディスクが破損した場合、破損したドライブのデータは復旧することはできません。あらかじめご了承ください。

4.1.1 通常モードで使用する (NSB-3NR/3MS シリーズ共通)

本製品に内蔵されているハードディスクを個々のドライブとして使用するときには、次のように RAID アレイを削除します。

- 1 設定画面で [ディスク] – [RAID] をクリックします。



- 2 RAID アレイの名前「Array1」をクリックします。

名前	RAIDモード	状態	全容量	使用容量	使用率(%)
1 Array1	1	Normal	996GB	32.2M	0%

- 3 [RAID アレイの削除] をクリックします。

- 4 [最終確認] 画面が表示されますので、実行する場合は表示されている数字を正確に入力し、[OK] をクリックします。

- 5 しばらくすると、[RAID アレイ削除] 完了画面が表示されますので、[OK] をクリックして下さい。

以上で通常モードの設定が完了しました。このまま通常モードで使用される場合は、共有フォルダーを作成してください。

4.1.2 RAID モードを変更する (NSB-3MS シリーズ)

RAID モードを変更するには、一度通常モードにしてから設定を行う必要があります。

- 1 設定画面より [ディスク] – [RAID] をクリックします。



- 2 RAID アレイの名前「Array1」をクリックします。

MEMO [RAID モード] が「RAID 構成なし」のときは、手順6にお進みください。

- 3 [RAID アレイの削除] をクリックします。

- 4 [警告] 画面が表示されます。

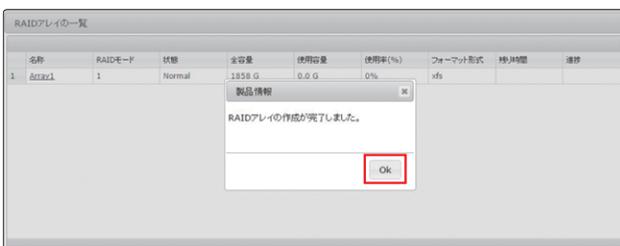
表示されている数字を正確に入力し、[OK] をクリックします。

- 5 [OK] をクリックします。

- 6 RAID アレイの名前「Array1」をクリックします。

- 7 [RAID モード] を選択して使用するハードディスクにチェックマークをつけ、[RAID アレイの作成] をクリックします。

- 8 完了すると、RAID 作成完了のポップアップが表示されますので [OK] をクリックします。



以上で RAID アレイの作成が完了しました。続いて共有フォルダーを作成してください。

4.1.3 RAID メンテナンスを使用する (NSB-3MS シリーズ)

RAID メンテナンスとは、RAID 0 以外の RAID アレイに対して、問題なく読み取りできるか、不良セクターがないかをチェックします。RAID メンテナンスは、定期的に行うことをおすすめします。

- 1 設定画面で [ディスク] – [RAID メンテナンス] をクリックします。



- 2 [編集] (Edit) をクリックします。

- 3 RAID スキャン状態を [有効] (Enabled) にし、RAID メンテナンスを実行するスケジュールを選択し、[OK] をクリックします。

MEMO

- [すぐに] (Immediately) を選択した状態で [OK] をクリックすると、すぐに RAID メンテナンスが実行されます。
- RAID メンテナンスの実行を中止したいときは、[RAID メンテナンスの停止] (Stop RAID Maintenance) をクリックしてください。

以上で RAID メンテナンスの設定は完了です。

4.2

外付けハードディスクを増設する

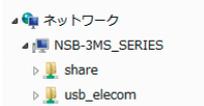
本体の USB2.0 ポートに当社製ハードディスクを増設して、共有フォルダーを作成することができます。

USB2.0 ポートの位置については、「**Chapter1 各部の名称**」をご参照ください。

フォーマット済みのハードディスクであれば自動的に認識されます。未フォーマットの場合、設定画面からフォーマットしてください。

※増設ハードディスクの対応フォーマットにつきましては、「**4.5 ハードディスクをフォーマットする**」の手順4内のMEMOを参照下さい。

正常に認識されると共有フォルダとして [usb_x] が追加されます (xはUSBハードディスクのボリュームラベルです)。



ハードディスクを取り外すときは、「**4.3 取り外し処理をする**」の手順に従って、必ず取り外し処理を行なってください。

取り外し処理を行わずに外付けハードディスクを取り外すと、再度接続した際に、正常に認識できないことがあります。このようなときは、本製品を再起動してから接続してください。

設定画面で [ディスク] - [USB ディスク] をクリックすると、現在、接続されているUSBディスクの情報を確認できます。

USBディスク								
ディスクチェック		ディスクフォーマット		ディスクの取り外し		リフレッシュ		
ディスク名	状態	全容量	機種名	使用容量	使用率	フォーマット形式	製造者	
● ELECOM	Normal	4008MB	MF-HMU2	4.0K	0%	FAT32	ELECOM MF-HMU2 (scsi)	

4.3 取り外し処理をする

4.3.1 設定画面で取り外し処理をする

USB 機器のハードディスクを設定画面から取り外し処理を行うときは、次のように行います。

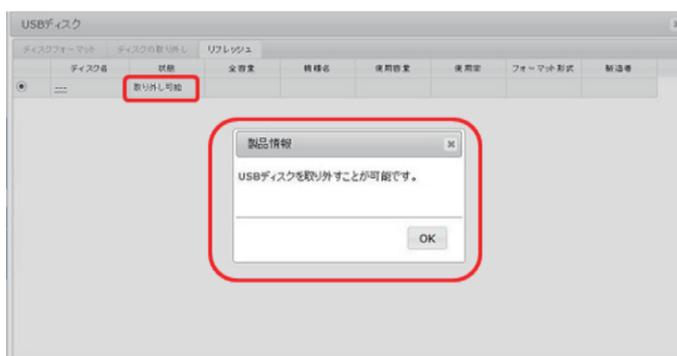
- 1 設定画面で [ディスク] – [USB ディスク] をクリックします。



- 2 取り外すハードディスクを選択し、[ディスクの取り外し] をクリックします。



- 3 表示された確認画面で [OK] を選択いただくと、[最終確認] 画面が表示されますので、実行する場合は表示されている数字を正確に入力し、[OK] をクリックします。
- 4 しばらくすると、USB ディスク取り外し完了画面が表示されますので、[OK] をクリックしてください。
- 5 管理画面の対象 USB ディスクの状態が [取り外し可能] と表示されている事を確認後、USB ディスクを取り外します。



以上で取り外し処理は完了です。

4.4 S.M.A.R.T. で内蔵ハードディスクをチェックする

S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology) で本製品に内蔵されているハードディスクをチェックし、故障の予測、早期発見をすることができます。

- 1 設定画面で [ディスク] – [ディスク] をクリックします。



- 2 チェックしたいハードディスクを選択後、[S.M.A.R.T.] をクリックします。

- 3 選択したハードディスクの情報が表示されます。

S.M.A.R.T.

ディスク名 : DISK1
 機種名 : WDC WD20EFRX-68EUZNO
 シリアル番号 : WD-WCC4M1NADHK9
 ファームウェア : 82.00A82
 ユーザー容量 : 2,000,398,934,016 bytes

ID	属性	状態	現在の値	ワースト値	しきい値
1	Raw_Read_Error_Rate	OK	200	200	051
2	Spin_Up_Time	OK	175	174	021
3	Start_Stop_Count	OK	100	100	000
4	Reallocated_Sector_Ct	OK	200	200	140
5	Seek_Error_Rate	OK	200	200	000
6	Power_On_Hours	OK	098	098	000
7	Spin_Retry_Count	OK	100	100	000
8	Calibration_Retry_Count	OK	100	100	000

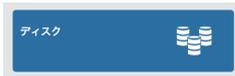
「しきい値」より「現在の値」が低い場合は HDD 障害が発生する可能性が高いと推測されます。

4.5 ハードディスクをフォーマットする

MEMO

- ・フォーマットを実行するとハードディスクのデータがすべて消去されます。
- ・フォーマット中は、本製品の電源を絶対に OFF にしないでください。

1 設定画面の **【ディスク】** をクリックします。



2 本製品に内蔵されているハードディスクをフォーマットする場合は、**【ディスク】** をクリックします。本製品に増設した外付けハードディスクをフォーマットする場合は、**【USB ディスク】** をクリックします。



3 フォーマットを行うハードディスクを選択し、**【ディスクフォーマット】** をクリックします。

USBディスク						
ディスクフォーマット		ディスクの取り外し	リフレッシュ			
	ディスク名	状態	全容量	機種名	使用容量	使用率
<input checked="" type="radio"/>	ELECOM_0708 5450F0943F94	正常	3.6 GB	MF-HMU2	0.6 GB	16%

4 フォーマット形式を選択し、**【適用】** をクリックします。

ディスクフォーマット

ディスク名：
USBメモリ

フォーマット形式：
EXT3

警告：フォーマットを実行する前に本製品のバックアップデバイスとして設定されていないことを確認してください。バックアップデバイスとして設定されている場合はフォーマットを実行しないでください。

MEMO

- 内蔵ハードディスクは XFS フォーマットのみ選択できます。
- RAID 構成に含まれているハードディスクはフォーマットできません。
- 外付けハードディスクの場合、以下のフォーマット形式に対応しています。
FAT32 (パソコンに接続しなおしてデータを確認したい場合におすすめです。) 使用時は下記制限がございます。
 - 4GB 以上のファイルは保存できません。
 - 2TB を超えるディスクは FAT32 ではフォーマットできません。EXT3 (EXT4 での使用に問題がある場合に選択してください。)
- EXT4 (本製品の増設ハードディスク、バックアップハードディスクとして使用する場合に選択してください)
- XFS (容量の小さいファイルを大量に扱う場合に選択してください。)
- NTFS (設定画面ではフォーマットできません。Windows パソコンを使用してフォーマットしてください)
- HFS+ (設定画面ではフォーマットできません。)
- 外付けハードディスクや USB メモリをフォーマットする際の、ディスク名は半角英数字を使用してください。

5 [最終確認] 画面が表示されます。

実行する場合は、表示されている数字を正確に入力し、**[OK]** をクリックします。

6 しばらくすると、フォーマット完了画面が表示されますので、**[OK]** をクリックします。

以上でハードディスクのフォーマットは完了です。

Chapter 5

.....

データをバックアップする

5.1

データをバックアップする

本製品は、共有フォルダー単位でバックアップを行うことができます。

本製品のバックアップには以下の方法があります。

リモートバックアップ：ネットワーク経由で、他の NSB シリーズにバックアップを行います。

ローカルバックアップ：本製品内の共有フォルダまたは外付けハードディスクにバックアップを行います。

5.1.1 他の NAS にバックアップする

NSB3 シリーズを 2 台使用し、リモートバックアップを実行することが可能です。

リモートバックアップ設定にあたり、まずバックアップ先の NAS に接続認証情報を設定、登録します。

MEMO

本リモートバックアップ実施に際しては、あらかじめ NSB 3 シリーズ 2 台の名称 (ホスト名) を P.66 「6.5 本製品の名称 (ホスト名) / 時刻を変更する」を参照いただき、設定変更してください。

バックアップ先 NAS 設定

- 1 バックアップ先の NSB3 シリーズの設定画面で、[バックアップ] - [バックアップ認証設定] をクリックします。



- 2 バックアップの認証設定画面が表示されます。

バックアップの認証設定

本機に対するバックアップは認証が必要 ①

② ユーザー名:

パスワード:

説明:
本機をリモートバックアップ先、またはレプリケーション先に設定するときに、このユーザー名とパスワードで認証します。

③

- ① 「本機に対するバックアップは認証が必要」にチェックを入れます。
- ② ユーザー名とパスワード（NAS のログイン情報とは異なります）を入力します。

MEMO

リモートバックアップ設定での手順 5（バックアップ元の NAS に本バックアップ先の NAS への接続設定時）において、ここで設定したユーザー名とパスワードが必要になります。

- ③ [適用] ボタンをクリックします。

以上で、バックアップ先の NAS の設定は完了です。

リモートバックアップ設定

- 3 バックアップ元の NSB3 シリーズにてバックアップタスクとスケジュールを設定します。
バックアップ元の NSB3 シリーズの設定画面で、[バックアップ] – [バックアップ] をクリックします。



- 4 バックアップ一覧画面が表示されますので、[バックアップタスクの追加] をクリックします。



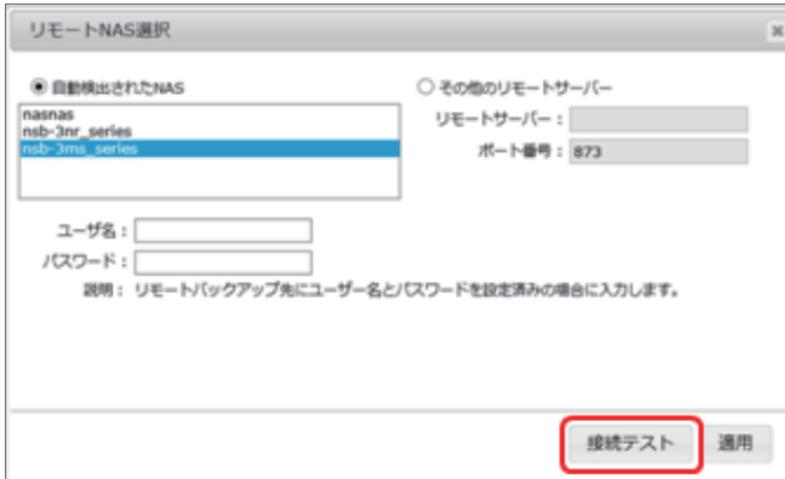
- 5 タスク設定画面が表示されますので、詳細バックアップ内容を設定後、バックアップモードに [リモート] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



タスク	バックアップ（タスク）名を入力します
スケジュール詳細	バックアップスケジュールを設定します。
同期タイプ	バックアップ方法を選択します。
同期	バックアップ元とバックアップ先の内容を常に同じに常に同じな内容にします。
増分	増えたデータのみをバックアップします。
オプション	必要に応じて下記の適用オプションにチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 暗号化転送する ・ 圧縮転送する ・ アクセス制限設定を維持する ・ ごみ箱をバックアップ対象から外す
バックアップ先のフォルダ構成	バックアップ先のフォルダ構成を下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バックアップ元フォルダ名でフォルダを作成しバックアップする ・ バックアップ元と同じ構成でバックアップする ・ タスク名でフォルダを作りバックアップをする

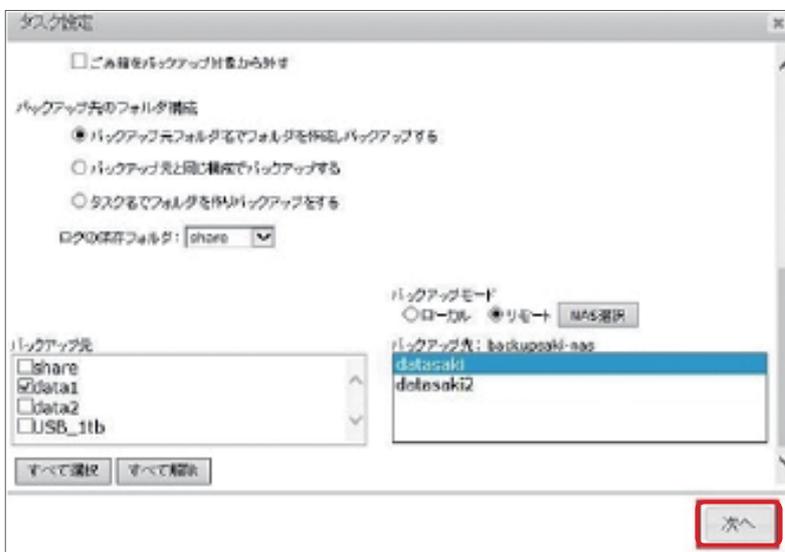
- 6** 表示されるリモート NAS 選択ダイアログ画面にて、バックアップ先 NAS の情報を入力します。「**ユーザー名**」、「**パスワード**」欄には**手順 2** で設定したバックアップ先 NAS の情報を入力します。

必要項目入力後、「**接続テスト**」ボタンをクリックし、接続テストを開始します。



- 7** 接続テスト完了後、「**適用**」ボタンをクリックします。

- 8** バックアップ元とバックアップ先のフォルダを選択し「**次へ**」をクリックします。



- 9** バックアップタスクの設定告知画面が表示されます。

「**告知**」内容のご確認後、「**同意します。**」のチェックボックスへチェックを入れて、最後に「**適用**」ボタンをクリックします。



10 バックアップ一覧画面に、設定したバックアップタスク情報が表示されます。



11 バックアップを開始するには、開始させたいタスク名にチェックを入れ、[開始する]をクリックします。

12 状態が「バックアップ中」から「完了」に変われば、バックアップ完了です。

以上で、リモートバックアップ設定は完了です。

5.1.2 外付けハードディスクを利用する

外付けハードディスクを利用し、ローカルバックアップをします。

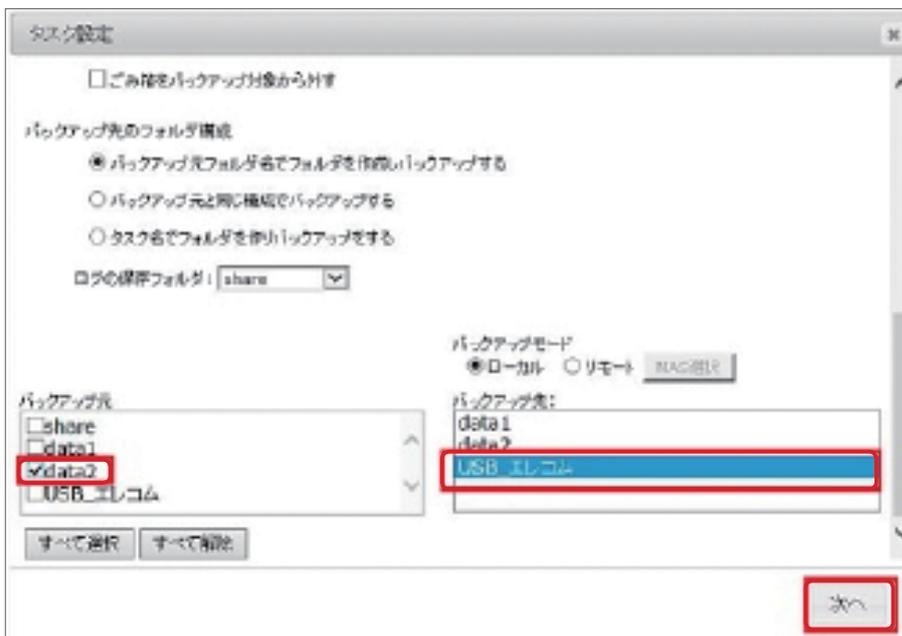
- 1 本製品の設定画面で、**[バックアップ]** – **[バックアップ]** をクリックします。



- 2 バックアップ一覧画面が表示されますので、**[バックアップタスクの追加]** をクリックします。

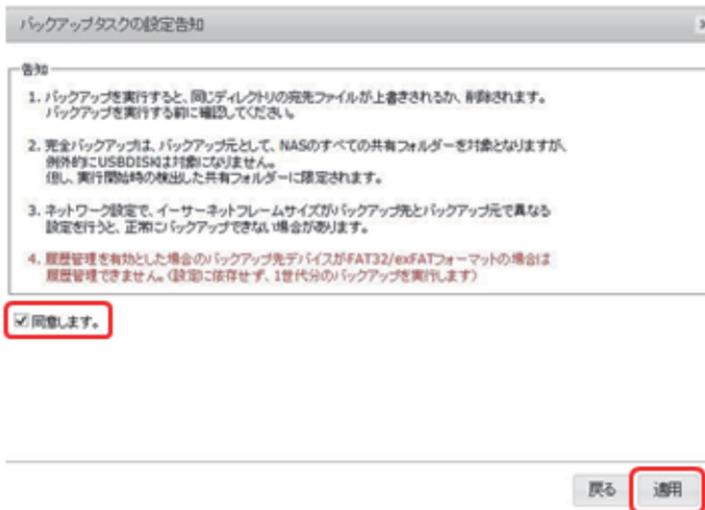


- 3 タスク設定画面が表示されますので、詳細バックアップ内容を設定後、バックアップモードに**[ローカル]** を選択し、バックアップ先の外付けハードディスクを選択後 **[次へ]** ボタンをクリックします。



4 バックアップタスクの設定告知画面が表示されます。

「告知」内容のご確認後、「同意します。」のチェックボックスへチェックを入れて、最後に「適用」ボタンをクリックします。



5 バックアップ一覧画面に、設定したバックアップタスク情報が表示されます。



6 バックアップを開始するには、開始させたいタスク名にチェックを入れ、「開始する」をクリックします。

7 状態が「バックアップ中」から「完了」に変われば、バックアップ完了です。

以上で、ローカルバックアップ設定は完了です。

5.1.3 レプリケーション機能を使用する

- 1 設定画面より [バックアップ] – [レプリケーション] をクリックします。



- 2 レプリケーションタスク一覧画面が表示されますので、[タスクの追加] ボタンをクリックします。



- 3 「レプリケーションタスクの設定」ダイアログが表示されます。タスク名など必要な情報の入力やチェック、レプリケーション先等を選択後、[次へ] をクリックします。



タスク名	実行するレプリケーション名を入力します。
オプション	バックアップ時の実施オプションにチェックを入れます。
ログの保存フォルダ	ログの保存先（フォルダ）を指定します。
レプリケーション元	レプリケーション元のフォルダを選択します。
レプリケーションモード	レプリケーション先の種類を選択します。 ローカル：外付けハードディスクなど リモート：ネットワーク経由で他の NSB シリーズ
レプリケーション先	レプリケーション先のフォルダを選択します。

4 「レプリケーションの設定告知」ダイアログが表示されます。
再度入力内容の確認が表示されますので、間違いがなければ **[適用]** をクリックします。

5 レプリケーションタスク設定が正常に完了すると、画面が冒頭の「レプリケーションタスク一覧」に戻り、設定したレプリケーション「**タスク**」が表示されます。

実行したいタスク名をチェックし、**[開始する]** ボタンをクリックすると、レプリケーションを実行します。



以上で、レプリケーションタスクの追加設定は完了です。

Chapter 6

本製品を管理する

6.1 メール通知機能を使用する

本製品の設定変更ならびに異常発生時に指定のメールアドレス宛てにメール通知設定することができます。

メール送信される内容は次のとおりです。

- HDD の状態定期報告
- システム通知

- 1 設定画面の「管理」をクリックします。



- 2 「メール通知」をクリックします。



- 3 「メール通知を有効にする」を選択します。

- 4 メール通知設定が可能となりますので、必要な情報を入力します。

- ① 「メール通知を有効にする」にチェックを入れます。
- ② SMTP サーバー名を入力します。
- ③ SMTP サーバーポートを入力します。
- ④ 認証方法 (無効にする / LOGIN(SMTP-AUTH)/CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)) を選択します。
- ⑤ ④認証方法にて LOGIN(SMTP-AUTH) を選択した場合、セキュリティタイプ (無効にする・SSL/TLS・STARTTLS) を選択します。

- ⑥ SMTP アカウント ID を入力します。
- ⑦ SMTP パスワードを入力します。
- ⑧ 送信者メールアドレスを入力します。
- ⑨ 受信者メールアドレスを入力します。
- ⑩ メール送信条件を選択、設定します。
 - ・定期報告 (時間を設定します。)
 - ・システム通知 (通知レベルを設定します。)
- ⑪ 入力完了後、「適用」をクリックし、設定を保存します。
- ⑫ 「テストメール送信」をクリックすると、テストメールを送信します。

定期報告メールの場合、以下の様な、内容メールが送信されます。

・件名

【定期報告】NASメール通知【ホスト名】

・メール本文

定期報告

[NetStor'情報]

ホスト名: xxxxxxxxx

時刻: yyyy/mm/dd hh:mm:ss

IPアドレス: uuu.xxx.yyy.zzz

設定画面: http://uuu.xxx.yyy.zzz/

連続稼働時間: hh:mm:ss

[ハードディスク利用状況]

RAIDアレイ1使用量: xxxxx kbytes / xxxxxxxxx kbytes (使用率 x%)

[ディスク エラー発生状況]

ディスク1 0

ディスク2 0

【注】【ホスト名】は実際のホスト名に置換。

【注2】ハードディスク利用状況は、RAIDを構成している場合は、上記の通りであるが、RAIDを構成していない場合は、各ディスクの使用量を表示。

ディスク0使用量: xxxxx kbytes / xxxxxxxxx kbytes (使用率 x%)

ディスク1使用量: xxxxx kbytes / xxxxxxxxx kbytes (使用率 x%)

MEMO

最大6つのアドレスまで送信できます。誤ったメールアドレスを入力しないようご注意ください。送信先にメールが届いていないときは、手順4で入力いただいた「サーバーアドレス」、「メールアドレス」、「ユーザー名」、「パスワード」等をもう一度ご確認ください。「システム通知」の送信時間は、「定期報告」と同時間(1日1回)となります。

以上でメール通知機能の設定を完了しました。

6.2 システムログ設定

- 1 設定画面より[管理]－[ログ]をクリックします。



- 2 システムログ画面が表示されます。

システムログ画面には、以下の項目が表示ならびにデータベースに保存されます。
 [・ログ発生日時 ・ログ内容 ・ログレベル ・ログコード ・要通知フラグ]
 通常 (ログレベル未設定時) は、最新のログ 50 件をログ一覧として表示します。



システムログ画面、搭載ボタン

①	ログレベル設定ボタン	表示ログ内容を以下の値より選択可能です。 ・全て (初期値) ・エラー ・警告 ・通知 ・情報
②	CSV エクスポートボタン	指定したログを CSV ファイルとして生成します。
③	ログ削除ボタン	不要なログを削除します。 残すログ件数をプルダウンより選択可能です。 ・全件削除 ・1000 件残す (初期値) ・3000 件残す ・5000 件残す
④	リフレッシュボタン	ログ一覧の自動更新を行います。 更新間隔は以下より選択が可能です。 ・なし (初期値) ・10 秒 ・20 秒 ・60 秒

MEMO

データベースに保存可能なログ件数は最大 5 万件となります。

6.3

本製品の設定を出荷時設定に戻す

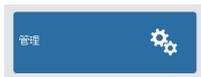
本製品は、下記の2通りの手順で設定の初期化が行なえます。

6.3.1 設定画面からの設定の初期化

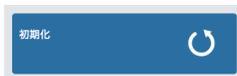
本設定では、すべての設定を工場出荷時設定に戻します。(詳細は、「7.1 出荷時設定」を参照願います)

※ハードディスクに保存されているデータは消去されません。

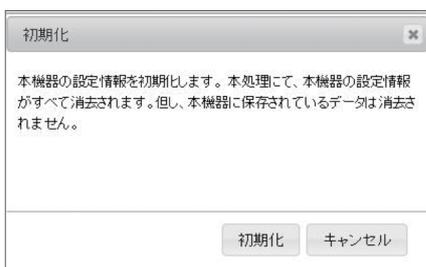
- 1 設定画面の**[管理]**をクリックします。



- 2 **[初期化]**をクリックします。



- 3 初期化に関する注意事項のポップアップが表示されます。注意事項のご確認後、初期化ボタンをクリックしてください。



- 4 **[警告]**画面が表示されます。

実行する場合は表示されている数字を正確に入力し、**[OK]**をクリックします。

- 5 「自動で再起動します」と警告画面が表示されますので、管理画面を閉じます。



以上で設定は完了です。

6.3.2 本体底面リセットボタンからの設定の初期化

本設定では、本製品底面のリセットボタンを押す事により、管理者パスワードとネットワーク設定のみを初期化します。

- 1 本製品の底面が見える状態にします。
- 2 電源ボタンを押し、本製品を起動します。
- 3 起動が完了したら、底面の穴にあるリセットボタンをクリップの先などで押します。
- 4 ビープ音が鳴り、本体の液晶画面に「N0100 Initializing」と表示されますので、初期化完了まで待機します。
- 5 管理画面にアクセスし、出荷時の情報（ユーザー名 / パスワード共に「admin」）でログインできる事を確認します。

以上で本体底面リセットボタンからの設定の初期化は完了です。

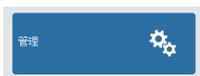
6.4 本製品をアップデートする

本製品がインターネットに接続されている状態で起動すると、お使いのファームウェアが最新でない場合、「新しいファームウェアがあります。」と表示されます。このようなときは、本製品の設定画面で最新のファームウェアにアップデートしてください。

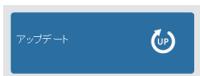
6.4.1 今すぐアップデートする

オンラインの場合

- 1 設定画面の **[管理]** をクリックします。

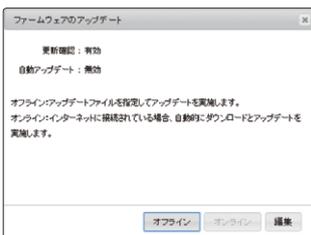


- 2 **[アップデート]** をクリックします。



- 3 **[オンライン]** をクリックします。

※最新ファームウェアがない場合、**[オンライン]** ボタンは選択できません。



- 4 表示された確認画面にて **[OK]** を選択いただくと、「**最終確認**」画面が表示されます。実行する場合は、表示されている数字を正確に入力し、**[OK]** をクリックします。

※ファームウェア更新後に本製品は自動的に再起動します。

以上でファームウェアのアップデートが完了です。

オフラインの場合

あらかじめ、弊社 WEB サイトよりファームウェアをダウンロードしていただく必要があります。

- 1 設定画面の **[管理]** をクリックします。



- 2 [アップデート] をクリックします。



- 3 [オフライン] をクリックします。

- 4 ファームウェアファイルを選択欄の [参照] をクリックし、最新のアップデートファイルを選択します。



- 5 [更新開始] をクリックし、以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上でファームウェアのアップデートが完了です。

6.4.2 自動でアップデートする

- 1 設定画面の [管理] をクリックします。

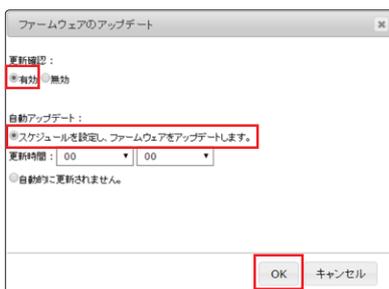


- 2 [アップデート] をクリックします。



- 3 [編集] をクリックします。

- 4 [更新確認] が [有効] であることを確認します。
[スケジュールを設定し、ファームウェアをアップデートします] を選択します。
設定した [更新時間] になると、自動でアップデートを行い、再起動します。



以上で自動アップデートの設定は完了です。

6.5

本製品の名称 (ホスト名)/時刻を変更する

名称 (ホスト名)/時刻の設定をするときは、次の手順で行います。

- 1 設定画面の**[管理]**をクリックします。



- 2 **[名称/時刻]**をクリックします。



- 3 **[編集]**をクリックします。



- 4 本製品の名称、説明を入力し、**[OK]**をクリックします。



- 5 **[時刻]**タブを選択します。初期設定ではNTPサーバーを使用して、自動的に時刻を補正するよう設定されております。

MEMO

- NTP機能について
- NTP機能を使用しない場合は**[編集]**をクリック後**[無効にする]**を選択し、年月日を入力します。**[設定中のPCから時刻を取得]**をクリックすると、入力欄に設定中のパソコンの時刻 (またはタイムゾーン) が入力されます。
- NTPサーバーへのアクセスには、DNSサーバーアドレスを設定することが必要な場合があります。

以上で設定は完了です。

6.6

警告音を設定する

本製品に異常があった際に鳴らす警告音の条件を設定できます。

- 1 設定画面の[管理]をクリックします。



- 2 [ステータス通知]をクリックします。



- 3 [警告音設定] タブで、[編集]をクリックします。



- 4 警告音を鳴らす条件を選択し、[OK]をクリックします。
ブザー鳴動を無効にすると、電源 ON 直後以外はブザー音が鳴らなくなります。

以上で警告音の設定は完了です。

6.7 表示パネルを設定する

本体前面の液晶ディスプレイ、ランプの表示について設定します。

- 1 画面の[管理]をクリックします。



- 2 [ステータス通知]をクリックします。



- 3 [表示パネル設定]タブをクリックします。



- 4 [編集]をクリックします。

- 5 ディスプレイ(表示項目)、自動表示切り替え、液晶の明るさを設定し、[OK]をクリックします。

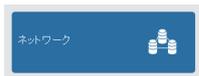
以上で表示パネルの設定は完了です。

6.8

本製品のIPアドレスを変更する

通常、本製品のIPアドレスはネットワーク上のDHCPサーバーから自動的に設定されています。IPアドレスを指定して設定する場合は、次のように設定します。

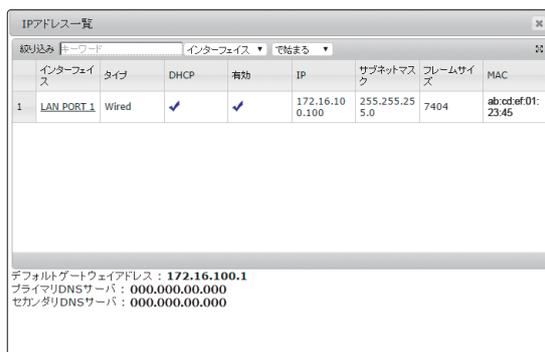
- 1 設定画面の[ネットワーク]をクリックします。



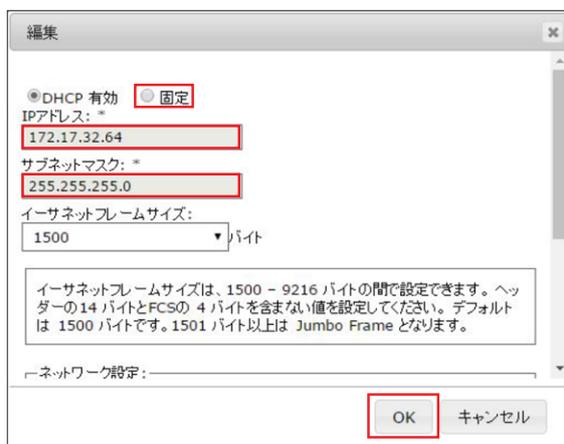
- 2 [IPアドレス]をクリックします。



- 3 IPアドレスを変更するインターフェイス名 (LAN PORT 1) をクリックします。



- 4 編集画面が表示されます。出荷時設定の[DHCP有効]から[固定]を選択し、設定したいIPアドレスおよびサブネットマスクを入力後、[OK]をクリックします。

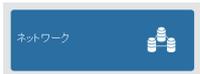


以上でIPアドレスの変更は完了です。

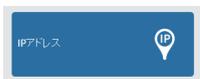
6.9 Jumbo Frameで転送する

Jumbo Frameで転送したいときは、次のようにイーサネットフレームサイズ(1回で転送できるデータの最大サイズ)を変更してください。

- 1 設定画面の[ネットワーク]をクリックします。

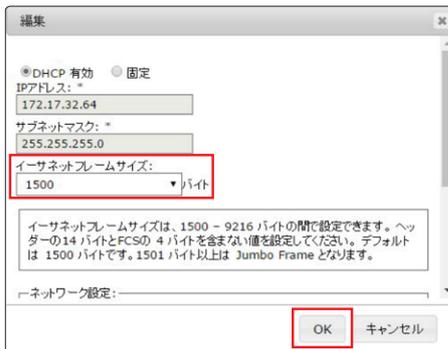


- 2 [IPアドレス]をクリックします。



- 3 Jumbo Frameで使用するインターフェイスをクリックします。

- 4 イーサネットフレームサイズ欄の数値を選択し、[OK]をクリックします。



MEMO

- 本製品のイーサネットフレームサイズの値は、接続しているハブやルーターのイーサネットフレームサイズより小さい値を設定してください。大きい場合、本製品へデータを転送することができません。

以上で設定は完了です。

6.10 UPS(無停電電源装置)と連動させる

別途用意いただいたUPSと連動することで、不意の停電発生時に本製品を自動でシャットアウトダウンを行い、大切データを保護する事が可能です。

※本製品はUSB接続形式でのUPS連動となります。

※本製品対応UPSはエレコム・ホームページを参照ください。

1 UPSの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

2 本製品の電源ケーブルをUPSに接続します。

3 UPSと本製品をUSBケーブルで接続します。

USBケーブルは本製品には付属していません。

別途、お客様にてご用意の程、お願い申し上げます。

※UPSの設定方法につきましては、UPS付属のマニュアルを参照ください。

4 UPS→本製品の順に電源をONにします。

5 設定画面より、[管理]-[UPSの同期]アイコンをクリックします。



6 UPS設定画面が表示されますので、本製品とUPSの連動方法を選択後、最後に[OK]をクリックします。

①本製品に接続されたUPSと連動する。

接続されたUPSを認識すると「UPSベンダー」、「UPSモデル」欄に、UPSメーカー、モデル情報が自動で反映されます。

※電源異常時のシャットダウン動作方法につきましても選択ください。

②ネットワーク上の他のNetStorシリーズに接続されたUPSと連動する。

連動するNetStorシリーズのIPアドレスを入力ください。

③UPSと連動しない



以上で、UPSとの連動設定は完了です。

Chapter 7



付録

7.1 出荷時設定

本製品は出荷時に以下のように初期設定されています。

管理者ユーザー名	admin
パスワード	admin
共有フォルダー	share (Windows & Mac OS X 共用) MEMO ゴミ箱機能は「使用する」に設定されています。
DHCPクライアント	DHCPサーバーがネットワーク内にある場合は自動取得します。DHCPサーバーがネットワーク内にない場合は、次のように自動設定されます。 IPアドレス: 192.168.1.100 ネットマスク: 255.255.255.0
ワークグループ名	
イーサネットフレームサイズ	1500 bytes (ヘッダー14 bytes+FCS 4 bytesを含まない)
SMB/CIFS	有効
NTP機能	有効
RAIDモード	NSB-3NRシリーズ: なし(RAID非対応) NSB-3MSシリーズ: RAID1

7.2 製品仕様

最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ (elecom.co.jp) を参照してください。

LAN端子	伝送速度	IEEE802.3ab準拠 (1000BASE-T) : 1000 Mbps全二重 IEEE802.3u準拠 (100BASE-TX) : 100 Mbps全二重/半二重 IEEE802.3準拠 (10BASE-T) : 10 Mbps全二重/半二重
	物理ポート数	4ポート (AUTO-MDIX対応) ※ 利用可能な有効ポートは、「INTERNET」ポートのみとなります。
	コネクタ形状	RJ-45型 8極
	対応プロトコル	TCP/IP
	アクセス方法	CSMA/CD
	対応ネットワークファイルシステム	SMB/CIFS、AFP、FTP
	ファイルプロトコル	HTTP/HTTPS
	Jumbo Frameサイズ	1,500/4,084/7,404/9,216 Bytes (ヘッダー14Bytes+FCS 4Bytesを含まない)
USB端子	USB2.0端子×2	
電源	12V 4A (専用ACアダプター)	
最大消費電力	【NSB-3NRシリーズ】 NSB-3NR1T1MLV :10.5W NSB-3NR2T1MLV :10.6W NSB-3NR3T1MLV :11.4W NSB-3NR4T1MLV :12.4W 【NSB-3MSシリーズ】 NSB-3MS2T2BLV :15.4W NSB-3MS4T2BLV :16.1W NSB-3MS6T2BLV :16.7W NSB-3MS8T2BLV :18.9W	
外形寸法 / 重量	NSB-3NRシリーズ :200.5x124x51.5mm:約1.3kg NSB-3MSシリーズ :200.5x124x90.5mm:約2.1kg ※本体のみ、突起部除く	
動作環境	温度0～40℃、湿度20～80% (結露なきこと)	
クライアント環境	P12、「使用環境について」を参照下さい。	
対応ブラウザ	【Windows 環境】 Internet Explorer 11.0 以降 (32bit)、Chrome (*)、Firefox (*) 【Mac 環境】 Safari 6.1 以降、Chrome (*)、Firefox (*) * NAS 設定時点の最新版をお使いください	

補足 A



サポート

A.1

製品の保証について

製品の保証とサービス

販売店発行のレシートまたは納品書等に記載されている購入日より3年間、本製品を本保証規定に従い無償修理することを保証いたします。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より3年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については個装箱に記載の保証規定をご確認ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- ・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

詳しい保証規定につきましては、個装箱に記載の保証規定をご確認ください。

●その他のご質問などに関して

77ページの「A.2 サポートサービスについて」をお読みください。

A.2

サポートサービスについて

よくあるお問い合わせ、対応情報、マニュアル、修理依頼書、付属品購入窓口などをインターネットでご案内しております。ご利用が可能であれば、まずご確認ください。

詳細は…

サポートポータルサイト「えれさぼ」へ



エレコム・ネットワーク法人サポート (ナビダイヤル)

TEL : 0570-070-040

受付時間：9:00～12:00、13:00～18:00 月曜日～金曜日

※祝祭日、夏季・年末年始休業日を除く

※PHS・一部のIP電話からはご利用いただけません。お手数ですがNTTの固定電話（一般回線）や携帯電話からおかけくださいますようお願いいたします。

本製品は、日本国内仕様です。国外での使用に関しては弊社ではいかなる責任も負いかねます。また国外での使用、国外からの問合せにはサポートを行っておりません。

This product is for domestic use only. No technical support is available in foreign languages other than Japanese.

テクニカルサポートにお電話される前に

お問合せの前に以下の内容をご用意ください。

- ・弊社製品の型番
- ・ネットワーク構成
- ・ご質問内容（症状、やりたいこと、お困りのこと）

※可能な限り、電話しながら操作可能な状態でご連絡ください。

補足 B



RAID の基本

概略

独立ディスク冗長アレイ (RAID) はデータ・セキュリティと高性能を提供する、複数のハードディスクからなるアレイです。RAID システムは複数のハードディスクを同時に利用し、単体性能を超えた高い I/O 性能を実現します。データ・セキュリティは RAID により強化されます。ハードディスクの不具合によるデータの損失は、RAID の他のハードディスクから冗長データが再生されることで最小限に抑えられるからです。

利点

RAID は、フォルト・トレランスと冗長データ・ストレージにより、I/O 性能を高めデータ・セキュリティを強化します。

性能の向上

RAID は複数のハードディスクを同時に利用することで、I/O 性能を飛躍的に高めます。

データ・セキュリティ

残念ながらハードディスクの不具合は避けられません。RAID により、ハードディスクの不具合によるデータの損失は防げます。RAID は別のハードディスクを用意することで、ハードディスクの不具合によるデータ損失を回避することができるからです。ハードディスクの一台が故障した場合、RAID ボリュームは他のハードディスクに保存されたデータとパリティからデータを再生することができます。

RAID レベル

本製品 (NSB-3MS シリーズのみ) は標準 RAID レベル 0、1 をサポートしています。システム・ボリュームを作成するときに RAID レベルを選びます。RAID レベルを選択するために検討すべき点は次の通りです。

- ・ 性能に対する要求
- ・ データ・セキュリティの必要性
- ・ システム中のハードディスクの数量および容量

次に、各 RAID レベルについて説明いたします。

RAID 0

RAID 0 は広い帯域を必要とするが、高いレベルのデータ・セキュリティは必要としないアプリケーションに最も適しています。RAID 0 は、すべての RAID レベルの中でも最高の性能を提供しますが、冗長性は提供しません。

RAID 0 はディスク・ストライピングを使用し、データをブロックごとに分割してボリューム内のすべてのハードディスクに対して書き込みをします。システムは複数のハードディスクを、より高速に読み書きするために利用することができます。RAID を作成するときに設定されたストライプ・サイズ・パラメータが各ブロックのサイズを決定します。パリティ計算が書き込み操作を複雑にすることはありません。

RAID 1

RAID 1 は、すべてのデータを 1 台のハードディスクから他のハードディスクにミラーリングすることで、完全な冗長性を提供します。しかし、使用できるデータ容量はハードディスク 1 台分です。

RAID 1 は完全なデータ・セキュリティという点では優れています。

ストライプ・サイズ

複数のハードディスクにわたり書き込まれるデータ・セグメント長です。データは RAID の複数のハードディスクにわたりストライプで書き込まれます。複数のディスクが同時に利用されるので、ディスク・ストライピングにより性能が向上します。ストライプのサイズは可変です。

ディスク使用率

RAID レベルと使用するディスク構成ごとのデータ容量は以下の通りです。

RAID レベル	ディスク台数	使用可能データ容量
RAID0	2 台	2 台分
RAID1	2 台	1 台分

補足 C



ライセンス情報

概略

本製品には GNU General Public License の条項の下で認可された、著作権で保護されたサードパーティのソフトウェアが含まれています。この認可の特別な条項および条件については GNU General Public License を参照ください。

ソースコードの入手については GPL で認可されたソフトウェアの全ソースコードを公開しています。そうしたソースコードの入手方法について詳細は、[エレコム・ネットワークサポート](#)までお問い合わせください。

- Copyrights (著作権)
- 本製品には、Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が記述した暗号ソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Mark Murray 氏が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) で使用するために OpenSSL Project が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、(<http://www.php.net/>) から自由に利用できる PHP が含まれています。
- 本製品には、University of California, Berkeley とその貢献者が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Winning Strategies, Inc. が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Apache HTTP サーバプロジェクト (<http://www.apache.org/>) で使用するために Apache Group が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、University of California, Berkeley の Softweyr LLC とその貢献者が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Bodo Moeller 氏が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Greg Roelofs 氏と O'Reilly and Associates 出版の本 "PNG: The Definitive Guide" の貢献者が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、NetBSD Foundation, Inc. とその貢献者が開発したソフトウェアが含まれています。
- Yen Yen Lim 氏と North Dakota State University が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Lawrence Berkeley Laboratory の Computer Systems Engineering Group が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Kungliga Tekniska Högskolan 氏とその貢献者が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Nick Simicich 氏が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Tim Hudson 氏 (tjh@cryptsoft.com) が開発したソフトウェアが含まれています。
- 本製品には、Christopher G. Demetriou 氏が NetBSD Project 用に開発したソフトウェアが含まれています。

CGIC License Terms (CGIC ライセンス条件)

Basic License (基本ライセンス)

CGIC, copyright 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004 by
Thomas Boutell and Boutell.Com, Inc.

Permission is granted to use CGIC in any application, commercial or noncommercial, at no cost. HOWEVER, this copyright paragraph must appear on a "credits" page accessible in the public online and offline documentation of the program. Modified versions of the CGIC library should not be distributed without the attachment of a clear statement regarding the author of the modifications, and this notice may in no case be removed. Modifications may also be submitted to the author for inclusion in the main CGIC distribution.

(商業目的、非商業目的の如何を問わず、任意のアプリケーションにおいて CGIC を無償で使用することを許可します。しかし、この著作権に関する文章を、「クレジット」のページに表示して公開のオンライン上でアクセスできるようにし、またプログラムのオフライン文書に掲載する必要があります。CGIC ライブラリの修正版は、修正をした本人を明示することなしに配布することを禁じます。また、この注意書きは如何なる場合にも削除することを許可しません。修正版は、CGIC 本体に統合して配布するために著作権者に提出することができます。)

GNU General Public License (GNU 一般公衆利用許諾契約書)

Version 2, June 1991

Copyright © 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed. (本利用許諾契約書を一字一句違えず複写し、配布することを許可しますが、内容の変更は禁じます。)

PREAMBLE

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software

Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under

copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another Language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program).

Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way,

to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute

corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/ donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have

the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

Network storage サーバー NSB-3NR/3MS シリーズ
ユーザーズマニュアル

発行 エレコム株式会社 2017 年 3 月 7 日 第 4.1 版